

滑稽本出版年譜稿

吉丸雄哉

(凡例)

- 1、この一覧は『道中膝栗毛』初編刊行の享和二年(一八〇二)から大政奉還の慶応三年(一八六七)までに刊行された文学史上滑稽本に分類される作品を年代順に配列したものである。滑稽本であるかの判定は日本古典籍総合目録データベースの分類を基本的に使用した。よって結果的に中本型の会話体小説以外のものも含まれている。ただし日本古典籍総合目録データベースが「洒落本」や「人情本」に分類したものである内容が滑稽本であれば含めている。
- 3、作品ごとの項目は「書名」「書名読み」「巻冊」「著・編者」「画工」「序跋」「出版元」「影印」「翻刻」「注」「参照」「作品概要」の順に記してある。該当する項目がない場合は、記入していない。
- 4、基本的に初版と思われる本のデータを載せた。
- 5、「書名」の()は角書。タイトルは日本古典籍総合目録データベースに基本的に沿っているが、あきらかに違う場合は訂正を加えている。「巻冊」で「一卷一冊」本は「一冊」とのみ記した。「著・編者」と「画工」は複数の名跡がある場合も代数を記さない箇所がある。「影印」「翻刻」は閲覧しやすい、手に入れやすいものを紹介している。「参照」は項目の内容確認に使用した書籍であり、書誌データと合致しない場合もある。早稲田大学古典籍総合目録データベースや東京大学電子版霞亭文庫は「影印」ではないが見やすいものとして含めた。また「影印」項に『膝栗毛文芸集成』が含まれる場合は書いていなくとも「参照」したと思つて欲しい。
- 6、本年譜稿は日本学術振興会科学研究費補助金「滑稽本の総合的研究」(課題番号24720092)の成果である。

享和2年～文化元年

享和二年（一八〇二）

旅眼石 たびすずり、一冊、十返舎一九作、十返舎一九画、村田屋治郎兵衛〈江戸〉板、影印藤栗毛文芸集成1・翻刻房繪叢書・名著全集藤栗毛下1、参照藤栗毛文芸集成1（底本国会本）。一九が従者太吉とともに享和元年に半年間常総を巡ったさいの紀行文。鹿島・香取・息栖の三社を訪問。狂歌を多く詠む。

道中藤栗毛初編 どうちゆうひざくりげしよへん、一冊、十返舎一九作、十返舎一九画、村田屋治郎兵衛か〈江戸〉板、翻刻小学館新全集、影印藤栗毛文芸集成1、注山崎屋清七を版元とする後刷本あり。参照藤栗毛文芸集成1（底本岐阜大本）。弥次喜多による珍道中を描く滑稽本。初編は東海道品川から箱根まで。

享和三年（一八〇三）

滑稽素人芝居 こっけいしろうとしばい、一冊、桜川慈悲成作、歌川豊国画、大和屋久兵衛〈江戸〉板、翻刻絵本稗史小説15、注蓬左本題簽「（滑稽）素人芝居」。文化六再版あり。参照蓬左文庫。長屋住まいのお国と山三郎と芝居好きの仲間が地主の還暦の地主の祝いのために忠臣蔵五段目を上演する計画をたてる。本番は描かれない。

忠臣蔵岡目評判 ちゆうしんぐらおかめひょうばん、一冊、十返舎一九作、近松東南序、丸屋文右衛門〈江戸〉板、翻刻演劇

文庫・帝国文庫赤穂復讐全集、注文政三年に忠臣蔵楽屋問答、安政四年忠臣蔵皮肉論の改題本。国会本は旧大惣本。参照国会・早大。忠臣蔵の大序から十段目までの各段の台詞を抜き出し、それぞれをちやかしたものの。

麻疹戲言 ましんぎげん、一冊、式亭三馬作、万屋太治右衛門〈江戸〉板、翻刻式亭三馬集、参照東大霞亭。当時の麻疹の流行にあてこんだ戯文。

道中藤栗毛後編 どうちゆうひざくりげこうへん、二巻二冊、十返舎一九作画、初版は村田治郎兵衛〈江戸〉板。後刷岐阜大本が河内屋太助〈大坂〉・美濃屋甚三郎〈江戸〉板。影印藤栗毛文芸集成1、翻刻小学館新全集、参照藤栗毛文芸集成1（底本岐阜大本）。藤栗毛の続き、箱根から大井川まで。

文化元年（一八〇四）

栄花の現 えいがのうつつ、四巻一冊、魚麻呂（編輯軒魚丸）作、浅山忠三郎〈大坂〉板、影印早大HP、注文政五版あり、参照早大。会話体ではない。上方を舞台にした小説。廓も登場し、洒落本に内容は近い。

五百崎虫の評判 いおぎさむしのひょうばん、三巻二冊、市川白猿（五代团十郎）・鳥亭焉馬編、翻刻続帝国文庫万物滑稽合戦記、

参照岩瀬。役者評判記をまね、虫を役者に見立て、評した名物評判記。落語「紋三郎稲荷」につながる狐詐欺談も収められる。

田舎草紙 いなかそうし、五巻五冊、十返舎一九作、李下齋東
 呂序、紅葉亭狩人跋、駿河屋半兵衛〈江戸〉板、翻刻古典文庫
 497『怪物輿論・田舎草紙・滑稽臍栗毛』、注静岡市木村(217、K)
 の「田舎草紙画稿」が挿絵草稿か、参照香川大神原。田舎で百
 姓たちが忠臣蔵の地芝居を滑稽に演じるさまを描いた。

教訓相撲取草 きょうくんすもうとりぐさ、一冊、十返舎一九
 作、喜多川喜久麿(喜多川月麿)画、一竹齋序、浜松屋幸助〈江戸〉
 板、翻刻洒落本大成22、参照蓬左。黄表紙『善悪角力勝負附』
 (一九作、豊国画、享和三刊)の統編的趣向。さまざまな娼妓と客
 を並べ相撲の取り組みに見立てて批評した本

(当世)嘘の川 うそのかわ、五巻五冊、粹川子(西村定雅)作、
 鉛屋安兵衛・著屋善助〈京〉板、影印早大H P、翻刻絵本稗史
 小説六・洒落本大系一二、注西村定雅は京の人。参照早大。上
 方を舞台にした洒落本的内容の小説。

楽屋方言 がくやことは、五巻五冊、鉄砲堂粹川子(西村定雅)
 作、自序、松本屋金蔵・著屋善助〈京〉板、影印早大H P、参
 照蓬左・早大。芝居に関係する人々を裏方を中心に描いたもの。

仮名手本穿鑿抄 かなでほんせんさくしょう 一冊、高瀬川路
 かう(瀬川菊之丞三代)作、篠田權々堂(篠田金治初代)編、無刊記、
 翻刻上方文化研究センター研究年報9、参照蓬左。忠臣蔵関係
 の珍品をあたかも実在するように掲出したもの。

道中膝栗毛三編 どうちゅうひざくりげさんへん、二巻二冊、
 十返舎一九作画、初版は村田治郎兵衛〈江戸〉板。後刷の岐阜
 大本が河内屋大助〈大坂〉・美濃屋甚三郎〈江戸〉板。影印膝
 栗毛文芸集成1、翻刻小学館新全集、参照膝栗毛文芸集成1(底
 本岐阜大本)。岡部から新居まで。

文化二年(一八〇五)

旧観帖初編 きゅうかんちようしよへん、三巻一冊、感和亭鬼
 武作、栄松齋画、初版は無刊記で蓬左文庫本が村田屋治郎兵衛
 〈江戸〉板、翻刻滑稽本集一、注書誌詳細は『滑稽本集一』に
 あり。蓬左文庫は三篇まで全四冊、四編もあり。参照蓬左。仙
 台からきた田舎者の江戸見物。

道中膝栗毛四編 どうちゅうひざくりげしへん、二巻二冊、十
 返舎一九作、村田屋治郎兵衛〈江戸〉板、影印膝栗毛文芸集成
 2、翻刻小学館新全集、注岐阜大本は村田治郎兵衛・伊藤与兵
 衛板、参照膝栗毛文芸集成(底本岐阜大本)。新居から桑名渡船
 まで。

叶福助略縁起 かのおふくすけりやくえんぎ、一冊、振鷺亭作、
叶子宝眼画、無刊記、影印早大HP、翻刻滑稽名作集下・洒落
本大系12・滑稽本集一、参照東大霞亭。両国界限の賑わいを記
す。田舎者を愚弄して描く。

白痴聞集 はくちぶんしゅう 一冊、感和亭鬼武作、北寿(葛
飾北寿・桃舎画)、注無刊記、参照蓬左。会話体でない。内題角
書が「奇談」であるように奇談集。全五話。

文化三年(一八〇六)

道中膝栗毛五編 どうちゅうひざくりげごへん、二巻二冊、十
返舎一九作、河内屋太助(大坂)・西村源六・鶴屋喜右衛門・
村田治郎兵衛(江戸)板、影印膝栗毛文芸集成2、翻刻小学館
新全集、注岐阜大本は河内屋太助・美濃屋甚三郎板。参照膝栗
毛文芸集成(底本岐阜大本)。桑名から山田手前まで。

道中膝栗毛五編追加 どうちゅうひざくりげごへんついか、一
冊、十返舎一九作、河内屋太助(大坂)・西村源六・鶴屋喜右
衛門・村田治郎兵衛(江戸)板、影印膝栗毛文芸集成2、翻刻
小学館新全集、注岐阜大本は河内屋太助・美濃屋甚三郎板。参
照膝栗毛文芸集成(底本岐阜大本)。古市遊郭の話や宇治山田
参拜。

旧観帖二編 きゅうかんちようにへん、二巻三冊、感和亭鬼武
作、村田屋治郎兵衛(江戸)板、翻刻江戸文学叢書・滑稽本集
一、注滑稽本集一の解説が詳細。二巻下は一九の筆による。岡
島真七版のほか中村屋幸蔵・釜屋又兵衛による後刷本あり。参
照滑稽本集一。田舎者の江戸見物。

酩酊氣質 なまよいかたぎ、一冊、式亭三馬作、歌川豊国画、
上総屋佐助・大島屋伝右衛門(江戸)板、翻刻小学館新全集、
注後刷は三冊本(蓬左)で大島屋のみが版元、参照小学館新全集。
酔っ払いのさまざまを独白体で描く。

戯場粹言幕乃外 けじょうすいげんまくのそと、二巻二冊、式
亭三馬作、歌川国直画、山城屋藤右衛門・山田屋佐助(江戸)
板、翻刻新日本古典文学大系86、注初版は天理本の袋から推定
(新大系)。「上 佐助」とあるので「上総屋佐助(石渡左助のち平八。
三馬の弟)」が版元の可能性も。玉川大本は天狗書林兔屋の後刷。
都立中央誌料本は文永堂武田伝右衛門(東京)の後刷。国会本
は無刊記。参照国会、新大系。江戸の大芝居の上演を見物の視
点から描いた。

見通鄙戯場 ありのままいなかしばい、一冊、柳陽舎園鶏作、
桜田氏序(文化三)、相模屋仁右衛門(大坂)(京大大葱)板、注
後編文化四年(小説年表)は出版されず。蓬左は無刊記。参照京

大大惣・蓬左。鈿子辺の、かつて芝居が上演されたことのない
辺田村での田舎芝居の準備と稽古を描く。

鳴子瓜 なるこうり、一冊、振鷺亭作、自序、群書堂佐助（江
戸）板、影印早大H P、参照蓬左・早大。長屋物。長屋住まい
の庶民生活を描く。

即興跡引上戸 そつきょうあしびきじょうご、一冊、十返舎一
九作、浜松屋幸助（江戸）板、影印早大H P、参照東大霞亨・
早大。雑多な事柄に触れたもの。

癡漢三人伝 ばかさんになんでん、一冊、感和亭鬼武作、尋跡齋
雪馬序、相模屋仁右衛門（江戸）板、翻刻古今小説名著集16、
注後編文化四年（小説年表）は出版されず。古今小説名著集はマ
イクロが国会にある。参照国文研本。馬鹿三人組の騒動を描く。

（住吉街道）綾線戯 あやくりげ、二巻一冊、金太楼（伊東蘭洲）作、
大腹中家守・桃尻散人序（文化三）、無刊記、影印膝栗毛文芸集
成13、参照蓬左。住吉四社に詣でる三人組の道中。

文化四年（一八〇七）

道中膝栗毛六編 どうちゆうひざくりげろくへん、二冊、十返
舎一九作、河内屋太助（大坂）・西村源六・鶴屋喜右衛門・村

田治郎兵衛（江戸）板、影印膝栗毛文芸集成2、翻刻小学館新
全集、注岐阜大本は河内屋太助・美濃屋甚三郎板、参照膝栗毛
文芸集成（底本岐阜大本）。伏見・京を巡る。

夷国滑稽羽栗毛 いこくこっけいはねくりげ、一冊、宇多楽庵
嬉丸（宇田楽庵嬉丸）作、魚屋北溪画、狂蝶子文磨序、桃陣房太
助（不明）板、影印膝栗毛文芸集成13、参照蓬左。羽衣を手
入れた放蕩息子が諸国を遍歴する。『風流志道軒伝』に似た話。

（民間図誌）口八丁 くちはつちよう、二冊、神屋蓬洲作、十返
舎一九序、釜屋又兵衛（江戸）板、注天保四再版（小説年表）。
参照筑波大マイクロ。前半が長屋物で後半が素人芝居物。芝居
の台詞の使用部分を強調してある。

（むかしむかし）雀百まで すずめひやくまで、二冊、紀定丸作、
注立命館所蔵。

（膝摺木）嘶ふしん はなしふしん、三巻三冊、従五位鷺ノ足長
興作、君山画、濁々山人序（文化三）、平野屋源治跋、無刊記、
影印膝栗毛文芸集成13、注膝摺木で登録されるがこれは角書で
「嘶ふしん」が外題本体、参照蓬左。膝栗毛物。弥次喜多が出
てきて大坂住吉参詣へ向かう剽窃作。

文化4年～文化5年

(播州巡り) 旅枕浦青海 たびまくらうらのあおうみ、二巻二冊、
彦玉作、藍月画、欄花堂序(文化四)、河内屋太助(大坂)・村
田屋治郎兵衛(江戸)板、影印膝栗毛文芸集成14、注角書から
別名播州巡り。岩瀬本は文政七版。弘化四版(旧大橋)あるら
しい。岩瀬本は前後編四冊で「文政七年 河内屋太助(大坂)・
美濃屋伊六(名古屋)」の刊記に加えて「美濃屋伊六・美濃屋
文次郎(名古屋)」の刊記あり。参照阪大忍頂寺。大坂にいる
江戸っ子ふたりが明石人丸社へ参詣しさらに播州の名所を巡る。

馬士の歌囊 まごのうたぶくろ、一冊、十返舎一九作画、無刊
記、翻刻江戸軟派叢書(国会マイクロ)、注旅眼石の改題再版本。
序文を更新。参照早大・東大霞亭。

文字の知画 もんじのちえ、一冊、十返舎一九作画、十返舎一
九序(文化三)、和泉屋市兵衛(江戸)板、影印・翻刻未刊江戸
文学15・16 注版元は見返しより。参照蓬左。さまざま人物に
小文がつき、さらに短話「無筆の話」が一篇つく。

文化五年(一八〇八)

(其趣双筥) 足毛讞初編 あしげのこまごとしよへん、三巻二冊、
翠川子(西村定雅)作、希栄・歌川豊秀画、伊予屋佐右衛門(京)
板、影印膝栗毛文芸集成16、注脚栗毛が改題本で書誌は複雑の
ため膝栗毛文芸集成の解説を参照のこと、参照上田花月。江

戸っ子二人の京見物。

(其趣双筥) 足毛讞二編 あしげのこまごとしよへん、二巻二冊、
盛田小塩作、伊予屋佐右衛門(京)板、影印膝栗毛文芸集成16、
注刊行年は文化五か六年、脚栗毛が改題本、参照蓬左・上田花
月。江戸っ子二人の大坂見物。

(其趣双筥) 足毛讞三編 あしげのこまごとさんへん、三巻三冊、
盛田小塩作、須原屋新兵衛・山城屋佐兵衛(江戸)板、影印膝
栗毛文芸集成16、注刊行年は文化五か六年、参考蓬左。江戸っ
子二人の京見物。

道中膝栗毛七編 どうちゆうひざくりげななへん、二冊、十返
舎一九作、河内屋太助(大坂)・西村源六・鶴屋喜右衛門・村
田治郎兵衛(江戸)板、影印膝栗毛文芸集成3、翻刻小学館新
全集、注岐阜大本は河内屋太助・美濃屋甚三郎板。参照膝栗毛
文芸集成3(底本岐阜大本)。京見物。

(興九旅人) 井中水 いなかのすい、二巻二冊、頭陀楽雲水作、
一文亭画、永田調兵衛・木村八郎兵衛(京)板、影印近世文芸
叢刊4・膝栗毛文芸集成14、注刊行は文化五から六年頃、参照
蓬左。東北と九州の二人の田舎侍の京見物。

江戸前嚙鱈 えどまえはなしうなぎ、二巻一冊、十返舎一九作、
 恋川春町（恋川行町）画、永寿堂序、西村与八（江戸）板、翻刻
 滑稽文学全集11、注静岡木村本が二冊本。参照都立中央。草双
 紙形式の嚙本。

七福七難図会 しちふくしちなんずえ、五巻五冊、生々瑞馬作、
 岡田東席（東彪）画・五嶺堂補画、河内屋太助（大坂）・菊合太
 兵衛・教来寺弥兵衛（京）板、注岡田東席は明石・五嶺堂は京
 の人。見返しによれば主版元は教来寺弥兵衛。参照国文研。会
 話体ではない。題ごとに絵がでて教訓めいた文章がつく。

長門本忠臣蔵 ながとぼんちゅうしんぐら、一冊、石川清澄作、
 葛飾北嵩画、村田治郎兵衛・角丸屋甚助（江戸）板、影印早大
 H P、注文化八に「忠臣蔵癡鑑」の改題本あり。参照早大。忠
 臣蔵を題材にした素人芝居物。

浪花土産初物語 なにわみやげはつものがたり、一冊、式亭三
 馬作、勝川春亭画、駿河屋半兵衛（江戸）板、影印早大 H P、
 参照蓬左。赤山下手蔵という旅役者が地方で中村歌右衛門のふ
 りをするがかえって狐に化かされる。三代目中村歌右衛門の江
 戸下りにあやかっただけ。

文化六年（一八〇九）

道中膝栗毛八編 どうちゅうひざくりげはちへん、三巻三冊、
 十返舎一九作、河内屋太助（大坂）・西村源六・鶴屋喜右衛門・
 村田治郎兵衛（江戸）板、影印膝栗毛文芸集成3、翻刻小学館
 新全集、注岐阜大本は河内屋太助・美濃屋甚三郎板、参照膝栗
 毛文芸集成（底本岐阜大本。大坂見物）。

身延道中滑稽華の鹿毛初編 みのぶどうちゅうこつけいはなの
 かげしよへん、三巻三冊、河間亭水盛作、水曲・歌川国丸画、
 十返舎一九序（文化六）、上州屋仲右衛門・村田治郎兵衛（江戸）・
 河内屋太助（大坂）板、影印膝栗毛文芸集成15、注一九の序の
 ある膝栗毛類作。版元は膝栗毛と同じ、参照蓬左・津市図橋本
 文庫。江戸っ子二人の甲州行き。内藤新宿から小仏宿。

田舎芝居茶屋雑談 いなかしばいがくやぞうだん、二巻二冊、
 七文舎鬼笑作、鳥居清峯画、西村屋与八（江戸）板、翻刻演劇
 文庫5、注文久元年版もあり、参照東大霞亭。上方の旅役者が
 地方を廻る様を八文字屋本風の文体で描いた。

浮世風呂前編 うきよぶろしよへん、二巻二冊、式亭三馬作、
 自序、西村源六・石渡利助・石渡平八（江戸）板、翻刻日本古
 典文学大系63・新日本古典文学大系86、注丁字屋平兵衛・美濃
 屋甚三郎による再版本（都立中央誌料）あり。再刻本の経緯など

棚橋正博『浮世風呂』について』(『江戸文学』20)に詳しい。
注旧大系は再刻本が底本。参照新日本古典文学大系86。江戸の
銭湯に来る客を描く。男湯篇。

江の島土産初編 えのしまみやげしよへん、一冊、十返舎一九
作、勝川春亭画、村田屋治郎兵衛・鶴屋金助(江戸)板、影印
膝栗毛文芸集成9、翻刻滑稽文学全集六・帝国文庫膝栗毛・古
典文庫451・十返舎一九集3、注同年の江ノ島開帳をあてこんで
作った。中村屋幸蔵や金屋又兵衛が版元の本は後版。参照膝栗
毛文芸集成9(底本東洋大学古典文庫)。江戸っ子二人の江ノ島参詣。
旧観帖三編 きゆうかんちようさんへん、一冊、感和亭鬼武作、
北川美丸画、村田屋治郎兵衛(江戸)板、翻刻滑稽本集一、注
岡島真七版のほか中村屋幸蔵・釜屋又兵衛による後刷本あり。
参照滑稽本集一。田舎者の江戸見物。

諸国無茶修行 しよこくむちやしゆぎよう、一冊、山赤亭川々
作、深川斎等琳画、竹川藤兵衛・伊勢屋忠右衛門・大和屋安兵
衛(江戸)板、影印早大H.P.膝栗毛文芸集成14、注「ひざく
りげ」後日の乗出」(文政三刊)と序をかえ改題再版。参照早大。
医師頓田玄起と居候の巳太郎が奥州めざし、向島から足利まで
北上する。治療の場面があり、膝栗毛のほか『竹斎』を意識し
たか。

種なし草 たねなしぐさ、三卷三冊、十返舎一九作、岩戸屋喜
三郎(江戸)板、注屈伸一九著の改題本。参照岩瀬。

腹佳話鸚鵡八芸 はらのかわおうむはちげい、一冊、山東京山
作、翻刻絵本稗史小説六・続帝国文庫京山全集。十二支にちな
んだ対話体短編集。

文化七年(一八一〇)

続膝栗毛初編 ぞくひざくりげしよへん、二卷二冊、十返舎一
九作、河内屋太助(大坂)・西村源六・鶴屋喜右衛門・村田治
郎兵衛(江戸)板、影印膝栗毛文芸集成4、翻刻帝国文庫9。
近代文芸叢書滑稽文学全集・近代日本文学大系18・名著全集22。
23、参照膝栗毛文芸集成(底本都立中央本)。大坂から室津丸亀を
経て金比羅参詣。

身延道中滑稽華の鹿毛二編 みのぶどうちゆうこうつけいはなの
かげにへん、三卷三冊、河間亭水盛作、水曲画、十返舎一九作
(文化七)、上州屋伸右衛門・村田治郎兵衛(江戸)・河内屋太助
(大坂)板、影印膝栗毛文芸集成15、参照蓬左。江戸っ子二人
の甲州行き。小仏峠から上野原。

江の島土産二編 えのしまみやげにへん、二卷二冊、十返舎一
九作、喜多川月麿画、村田屋治郎兵衛・鶴屋金助(江戸)板、

影印膝栗毛文芸集成9、翻刻滑稽文学全集六・帝国文庫膝栗毛、注中村屋幸蔵・金屋又兵衛などは後版。書誌は膝栗毛文芸集成9に詳しい。参照膝栗毛文芸9（東洋大学古典文庫）。江戸っ子二人の江ノ島参詣。

江の島土産三編 えのしまみやげさんへん、二巻二冊、十返舎一九作、勝川春亭画、村田屋治郎兵衛・鶴屋金助（江戸）板、影印・膝栗毛文芸集成9、翻刻滑稽文学全集六・帝国文庫膝栗毛、注中村屋幸蔵・金屋又兵衛などは後版。参照膝栗毛文芸集成9（東洋大学古典文庫）。江戸っ子二人の江ノ島参詣。

浮世風呂二編 うきよぶろにへん、二巻二冊、式亭三馬作、自序、西村源六・石渡利助・石渡平八（江戸）板、翻刻日本古典文学大系63・新日本古典文学大系86。女湯篇。

伊吾物語 いごものがたり、梅暮里谷峨作、酔醒楼北嵩・翁飾北嵩 画、自序、鶴屋金助・山崎平八（江戸）板、注中村幸彦本は文化十年刊で平野屋武右衛門（大坂）板、参照都立中央誌料。忠臣蔵十段目の登場人物丁稚伊吾を主人公にした小説。

（下愚方言）鄙通辞 いなかつうじ、二冊、榎歌亭真楯（林国雄作、勝松山画、村田治郎兵衛・角丸屋甚助・松本屋新八（江戸）板、翻刻日本文化研究所研究報告別巻23・24集、注蓬左は一冊

本。刊記などは東大霞亭文庫本によった。参照東大霞亭・蓬左。江戸見物の田舎者たちの姿を方言の再現に注意しつつ描いたもの。

客者評判記 かくしやひょうばんぎ、三巻二冊、式亭三馬作、歌川国貞画、塩屋長兵衛・鶴屋喜右衛門・鶴屋金助（江戸）板、文化七版のほか文化八版と文政八版あり。参照国文研本。評判記仕立てで芝居の見物らを評価する。狐のふりをして人をだます短話もつく。

勧善田舎相撲 かんぜんいなかずもう、二巻二冊、米花散人作、参照都立中央。いわゆる田舎芝居物だが、芝居ではなく勧進相撲を題材にした。

文化八年（一八一二）

続膝栗毛二編 ぞくひざくりげにへん、二冊、十返舎一九作、河内屋太助（大坂）・西村源六・鶴屋喜右衛門・村田治郎兵衛（江戸）板、影印膝栗毛文芸集成4、翻刻帝国文庫9・近代文芸叢書滑稽文学全集・近代日本文学大系18・名著全集22・23、参照膝栗毛文芸集成（底本都立中央本）。下津井から軈の湊尾道を経て宮島参詣。

文化8年

身延道中滑稽華の鹿毛三編　みのぶどうちゅうこっけいはなの
かげさんへん、二巻二冊、河間亭水盛作、水曲画、十返舎一九
序（文化八）、無刊記、膝栗毛文芸集成15、参照蓬左（再版本）。
江戸っ子二人の甲州行き。鶴川から大月端まで。

ありま筆　ありまふで、二冊、年々房来里作、合川珉和・矢野
夜潮画、橋屋嘉助・亀屋治兵衛〈京〉板、参照神宮文庫。

駅路の鈴　えきろのすず、一冊、東里山人（鼻山人）作、勝川
春扇（春好二代）画、岩戸屋喜三郎・村田屋治郎兵衛〈江戸〉板、
参照国会。九州の片田舎の遊郭での田舎大尽と遊女のやりとり
を記す。

（三十二相）己が声色　おのがこわいろ、一冊、東民作、春青画、
無刊記、影印早大H P、参照早大。絵入独白体の滑稽本。ぞれ
ぞれの姿を「〇〇相」として示す。

狂言田舎操　きょうげんいなかあやつり、四冊、式亭三馬校訂
楽亭馬笑作、喜多川歌麿・歌川国直画、鶴屋金助〈江戸〉板、
影印早大H P、翻刻滑稽本集一、参照蓬左・国会。人形浄瑠璃
の買芝居を扱った田舎芝居物。三馬門人の楽亭馬笑が浄瑠璃語
りだった。

（阿躰茶番）口切のせりふ　くちきりのせりふ、三冊、東里山人（鼻
山人）作、勝川春扇（春好二代）画、岩戸屋喜三郎〈江戸〉板、
注国文研本は角書「茶番狂言」、参照国文研。絵入り独白体滑
稽本。

下界頭会　げかいずえ、一冊、東西庵南北作、勝川春扇（春好
二代）画、若狭屋与市〈江戸〉板、参照国会。判じ絵本。

滑稽二日酔　こっけいふつかよい、二巻三冊、十返舎一九作、
翻刻滑稽文学全集二・帝国文庫滑稽名作集上・滑稽二日酔（明
治二五）江島伊兵衛〈東京〉、注初版は版元不明で再版改題本に
『串戯二日酔』（文政八版岩瀬）。岩瀬本の版元は西村屋与八と越
前屋長次郎。参照岩瀬。長屋物。大晦日元日と二日間の長屋の
人々の騒動を描く。

四十八癖初編　しじゅうはちくせしよへん、一冊、式亭三馬作、
歌川国直画、自序、鶴屋金助〈江戸〉板、翻刻新潮古典文学集
成、注釜屋又兵衛による再版本あり（都立中央誌料）。参照蓬左。
癖をテーマにした会話体短編集。

（串戯教諭）六あみだ詣初編　ろくあみだもうでしよへん、二巻
二冊、十返舎一九作、鶴屋金助〈江戸〉板、影印早大H P・膝
栗毛文芸集成10、翻刻近代日本文学大系十返舎一九集・帝国文

庫滑稽名作集上・古典文庫423、注静岡木村本が釜屋又兵衛（江戸）板の後刷本。参照早大・膝栗毛文芸集成10（東洋大学古典文庫）。江戸近郊の六阿弥陀詣に行く大屋と長屋衆を描く。

文化九年（二八二二）

続膝栗毛三編 ぞくひざくりげさんへん、二巻二冊、十返舎一九作、河内屋太助（大坂）・西村源六・鶴屋喜右衛門・村田治郎兵衛・永楽屋西四郎（江戸）板、影印膝栗毛文芸集成4、翻刻帝国文庫9・近代文芸叢書滑稽文学全集・近代日本文学大系18・名著全集22・23、参照膝栗毛文芸集成（底本都立中央本）。木曾街道。大津から柏原まで。

浮世風呂三編 うきよぶろさんへん、二巻二冊、式亭三馬作、自序、西村源六・石渡利助（江戸）板、翻刻岩波新大系86。女湯篇。

（串戯教諭）六あみだ詣二編 ろくあみだもうでにへん、二巻二冊、十返舎一九作、鶴屋金助（江戸）板、影印早大H P・膝栗毛文芸集成10、翻刻近代日本文学大系十返舎一九集・帝国文庫滑稽名作集上・古典文庫423、参照早大・膝栗毛文芸集成10（東洋大学古典文庫）。江戸近郊の六阿弥陀詣に行く大屋と長屋衆を描く。

成田道中黄金の駒 なりたどうちゅうこがねのこま、二冊、赤須賀米作、盈齋北岱（葛飾北岱）画、西村源六・西村与八・丁子屋平兵衛・大島屋惣兵衛・中村幸蔵（江戸）板、翻刻房総文庫一、注表紙に「板元中村敬白」とあるので中村屋幸蔵が中心か。原本は一冊本だった模様。参照蓬左。下戸と上戸の二人が江戸から成田山参詣を目指す。

忠臣蔵偏癡氣論 ちゅうしんぐらへんちぎろん、一冊、式亭三馬作、歌川国直画、鶴屋金助（江戸）板、影印早大H P、翻刻式亭三馬集、注式亭三馬集に詳細書誌。参照早大。忠臣蔵の登場人物に難癖をつけたへんちぎ論本。畠中観齋『忠臣蔵人物評論』を流用した。

世の中貧福論初編 よのなかひんぶくろんしよへん、三巻三冊、十返舎一九作画、角丸屋甚助・丁子屋平兵衛・鶴屋金助・大橋文蔵（江戸）板、翻刻近代日本文学大系十返舎一九集・帝国文庫滑稽名作集下、参照国文研。貧乏神が裕福な家の子につき、福の神が貧乏な家の子につくことでおこる騒動を記す。江島其磧『商人軍配図』にもとづく。

（滑稽論言）大師めぐり だいしめぐり、三巻三冊、十返舎一九作、勝川春好画、西村与八（江戸）板、影印膝栗毛文芸集成11、翻刻帝国文庫滑稽名作集下・古典文庫670、参照膝栗毛文芸集成

11 (中村正明、関西大学本)。弘法大師由来の霊場を巡る大師めぐりを題材とする。特定の主人公がいらない。

文化十年(一八二三)

続藤栗毛二編追加 ぞくひざくりげにへんつか、二巻二冊、十返舎一九作、河内屋太助・河内屋嘉七(大坂)・森屋治兵衛・西村与八・村田治郎兵衛(江戸)板、影印藤栗毛文芸集成4、翻刻帝国文庫9・近代文芸叢書滑稽文学全集・近代日本文学大系18・名著全集22・23、参照藤栗毛文芸集成(底本都立中央本)。播州巡り。

続藤栗毛四編 ぞくひざくりげしへん、二巻二冊、十返舎一九作、河内屋太助(大坂)・西村源六・鶴屋喜右衛門・村田治郎兵衛・永楽屋西四郎(江戸)板、影印藤栗毛文芸集成5、翻刻帝国文庫9・近代文芸叢書滑稽文学全集・近代日本文学大系18・名著全集22・23、参照藤栗毛文芸集成5(底本都立中央本)。木曾街道。垂井から伏見。

浮世風呂四編 うきよぶろしへん、三巻三冊、式亭三馬作、自序、丁字屋平兵衛・美濃屋甚三郎板、翻刻日本古典文学大系63・新日本古典文学大系86。男湯篇。

四十八癖二編 しじゅうはちくせにへん、一冊、式亭三馬作、

歌川国直画、自序、鶴屋金助(江戸)板、翻刻新潮古典文学集成、参照 蓬左。癖をテーマにした会話体短編小説集。

(串戯教諭)六あみだ詣三編 ろくあみだもうでさんへん、一冊、十返舎一九作、鶴屋金助(江戸)板、影印早大HP・藤栗毛文芸集成10、翻刻近代日本文学大系十返舎一九集・帝国文庫滑稽名作集上・古典文庫423・藤栗毛文芸集成10、参照藤栗毛文芸集成10(東洋大学古典文庫)。江戸近郊の六阿弥陀詣に行く大屋と長屋衆を描く。

一盃綺言 いっぱいきげん、一冊、式亭三馬作、歌川豊国画、石渡利助(江戸)板、影印早大HP、翻刻式亭三馬集、注後刷に大島屋伝右衛門(江戸)板のほか、江島伊兵衛(東京)。『式亭三馬集』に詳細書誌。参照蓬左・早大。酒を飲んだときの癖をテーマにした会話体短編集。ほぼ独白体。

浮世床初編 うきよどこしよへん、三巻三冊、式亭三馬作、歌川国直画、自序、鶴屋金助・柏屋清兵衛(江戸)板、翻刻小学館新全集・新潮古典集成、注文化十一年刊(鶴屋金助・柏屋半蔵・堺屋国蔵(江戸)の後刷あり(弘前図)。文化十年版は鶴屋金助・柏屋清兵衛(江戸)板(京大頼原本)など。日本古典籍総合目録DBが初編文化八、二編文化九とするのは不審。髪結床の主人と使用人、それと髪結床に通う人たちとの会話を描く。

田舎芝居忠臣蔵初編 いなかしばいちゅうしんぐらしよへん、二巻二冊、式亭三馬作、鶴屋金助〈江戸〉板、影印早大H P、翻刻帝国文庫四大奇書上、参照蓬左・早大。地狂言の忠臣蔵を題材にした田舎芝居物。朝寝房夢羅久の落話に構成をとる。

今西行吾妻旅路 いまさいぎょうあずまのたびじ、三冊、振鷺亭主人作、自序、本屋政吉・西村与八・山崎平八〈江戸〉板、影印早大H P、注早大本は途中まで、参照蓬左。歌祭文の名手て今西行の名高いよたん坊の諸国巡り。

花の下物語 はなのしたものがたり、一冊、長二樓乳足作、十返舎一九閼、鶴屋金助・中村幸蔵・大島屋宗兵衛板、影印早大H P、翻刻膝栗毛文芸集成16、注 早大本は無刊記。王子道中浮世膝栗毛という改題本（都立中央誌料）が存在する、参照早大。正月の恵方参り、日本橋から王子へ参詣する道中を描く。

（仮名手本）蔵意抄 くらいしょう、一冊、万寿亭正二（篠田金治初代）作、式亭三馬補、歌川国貞画、西村源六〈江戸〉板、翻刻日本名著全集滑稽本集、参照早大。忠臣蔵関係の珍品の古物を掲出する。

役者用文章 やくしゃようぶんしょう、一冊、曲亭馬琴作、喜多川秀麿画、中村幸蔵〈江戸〉板、注升川治助・升川源助版元

の文化十一版あり（東洋文庫。参照早大。絵入りの往来物パロディ。

人間万事虚誕計初編 にんげんばんじょうそばっかりしよへん、一冊、式亭三馬作、伊賀屋勘右衛門・関口平右衛門〈江戸〉板、影印早大H P、翻刻近代日本文学大系式亭三馬集・滑稽文学全集四・帝国文庫滑稽名作集下・日本名著全集滑稽本集・叢書江戸文庫滑稽本集一、参照東大国語。さまざまな人物に建前の「嘘」をしゃべらせ、さいごに「まこと」を紹介する。

文化十一年（一八一四）

道中膝栗毛発端 どうちゅうひざくりげぼったん、一冊、十返舎一九作、河内屋太助〈大坂〉・森屋治兵衛・西村屋与八〈江戸〉板、影印膝栗毛文芸集成1、翻刻小学館新全集、注岐阜大本は村田治郎兵衛・伊藤与兵衛板。参照膝栗毛文芸集成1（底本岐阜大本）。なぜ弥次喜多が伊勢参りに旅立つに至ったかを描く。

続膝栗毛五編 ぞくひざくりげごへん、二巻二冊、十返舎一九作、河内屋太助〈大坂〉・森屋治兵衛・村田治郎兵衛・永楽屋西四郎〈江戸〉板、影印膝栗毛文芸集成5、翻刻帝国文庫9・近代文芸叢書滑稽文学全集・近代日本文学大系18・名著全集22・23、参照膝栗毛文芸集成（底本都立中央本）。木曾街道。伏見から大井。

古今百馬鹿 ここんひやくばか、二卷二冊、式亭三馬作、歌川国直画、自序（文化九）、葛屋重三郎・越前屋吉兵衛・山崎平八（江戸）板、翻刻式亭三馬集、注『式亭三馬集』に詳細書誌。参照蓬左。「鼻毛をのばす亭主馬鹿」「負て腹立つ下手象棋馬鹿」など馬鹿ものを列挙。

素人狂言紋切形 しろうとききょうげんもんきりがた、二卷四冊、式亭三馬作、歌川国直画、自序（文化九）、大島屋伝右衛門（江戸）板、翻刻三馬傑作集・滑稽文学全集6、参照吉丸。チャリ仕立の座敷狂言を好み寝食を忘れてそれに興じる素人芝居連中を描く。

浮世床二編 うきよどこにへん、二卷二冊、式亭三馬作、歌川国直画、自序、鶴屋金助・柏屋半蔵・堺屋国蔵板。翻刻小学館新全集・新潮古典集成。髪結床の裏でのいたこの口寄せが描かれるが、全体として初編と同じく髪結床に集まる人々を描く内容。

田舎芝居忠臣蔵後編 いなかしばいちゆうしんぐらこうへん、二卷二冊、式亭三馬作、鶴屋金助（江戸）板、参照蓬左。地狂言の忠臣蔵を題材にした田舎芝居物。万象亭『田舎芝居』に拠る部分が多い。

滑稽躰栗毛 こっけいへそくりげ、二冊、十返舎一九作、自序、村田屋治郎兵衛・鶴屋金助（江戸）板、影印膝栗毛文芸集成11、翻刻古典文庫497、参照膝栗毛文芸集成11（蓬左文庫）。長屋物。長屋の住人たちを描いた作品。取り上げ姿が主人公格。

（加賀屋道中記）芝翫栗毛 しかんくりげ、二卷二冊、中村芝翫（初代）作・浜松歌国編、松年・謙居・松峰・桃溪・桃里画、藤山人・浜松歌国序、河内屋太助（大坂）板、影印膝栗毛文芸集成17、翻刻上方芸文叢刊4、注挿絵は各人一葉。参照都立中央誌料。役者江戸下りを描いた膝栗毛物。

旅芝居田舎正本 たびしばいいなかのしょうほん、一冊、万寿亭正二（篠田金治初代）作、式亭三馬補、勝川春亭画、西村源六・伊勢屋忠右衛門（江戸）板、参照蓬左・東大霞亭。越後蒲原郡での旅芝居を歌舞伎の台帳に似せた体裁で記した。

田舎みやげ菅原伝授二編 いなかみやげすがわらでんじゆにへん、二冊、葛葉山人（篠田金治初代）作、勝川春亭画、注同名本の初編が存在するというが、見当たらない。二編のみ国会に存在するが、前述の旅芝居田舎正本と同一。参照国会。

津島土産初編 つしまみやげ、二卷二冊、石橋庵増井作、松屋善兵衛（名古屋）板、注二編が『滑稽祇園守』。影印膝栗毛文芸

集成17、参照蓬左。名古屋から津島社への道中を描く膝栗毛物。

天王寺まいり てんのうじまいり、三巻三冊、登天館生銅作、十返舎一九聞、西村与八〈江戸〉・正本屋利兵衛・河内屋太助・河内屋嘉七〈大坂〉板、影印膝栗毛文芸集成17、翻刻絵本稗史小説一五。弥次喜多による天王寺参り。文化四年『膝摺木』噺ふしん』の続編に相当するが作者は別人。

春廿三夜待 はるのにじゅうさんやまち、三巻三冊、岡山鳥作、歌川国貞・歌川国繁画、西村与八・丁子屋平兵衛・柏屋半蔵〈江戸〉板、翻刻続帝国文庫名家短篇傑作集、注最終丁「板元消息之縮図」から柏栄堂柏屋平蔵が版元の中心と思われる。参照蓬左。素人狂言物だが時代を鎌倉に移している。

人心覗からくり前編 ひとごころのぞきからくりぜんへん、二巻二冊、式亭三馬作、歌川国直画、西村与八・山崎平八・天満喜平・鶴鶴長治・口腹源助〈江戸〉板、翻刻式亭三馬集、注式亭三馬集に詳細書誌。版元の口は判読不能。弘化五年に続編。参照慶大幸田文庫。人間の心の表（建前）と裏（本音）を描き分ける会話体短編集。

身振寿賀多八景 みぶりがたはつけい 一冊、三笑亭可楽作、歌川美丸（北尾重政二代）画、村田屋治郎兵衛・愛智屋善兵衛〈江

戸〉板、影印早大HP、翻刻小噺再度目見得11、注早大本は無刊記で題簽は「滑稽噺」身振姿」で二冊分冊、参照早大。さまざまな人物ごとに小話を記す。三馬がよく書いていた独白体短編集と同様。

文化十二年（一八一五）

（秋葉山鳳来寺）一九之記行 いっくがみちのき、二巻二冊、十返舎一九作、自序、河内屋太助〈大坂〉・松屋善兵衛〈尾張〉・鶴屋金助〈江戸〉板、影印膝栗毛文芸集成11、翻刻古典文庫451、参照蓬左。一九自身が主人公。名古屋から鳳来寺を経て掛川に出る。

田舎講釈 いなかこうしゃく、一冊、東里山人（鼻山）作、歌川国信画、無刊記、参照蓬左。江戸見物の爺婆が講釈を聞く。

（名護屋見物）四編之綴足初編 しへんのとじたりしよへん、二巻二冊、東花元成作、北亭墨僊（牧墨僊）画、自序・月光亭墨僊跋、美濃屋伊六・美濃屋市兵衛・松屋善兵衛・麻生屋与兵衛・永楽屋東四郎〈名古屋〉・角丸屋甚助〈江戸〉板、影印膝栗毛文芸集成18、翻刻名古屋叢書文学編一、注中心版元は静観堂美濃屋伊六。参照蓬左。題名は道中膝栗毛四編の補遺の意。弥次喜多の名古屋見物。

馬鹿多訳合鑑 ばかたわけあわせかがみ、一冊、東里山人(鼻山人)作、歌川豊国画、和泉屋市兵衛(江戸)板、影印東大霞亭、注筆耕司馬赤水。草双紙様式。参照東大霞亭。男女合わせて十一例の馬鹿者を記した独白体短編集。

真寿加賀見東梯 まずかがみあずまのおもかげ、二巻二冊、南笠亭房丸作、蘆鷹(豊川蘆鷹)画、河内屋太助(大坂)・松屋善兵衛(尾張)・鶴屋金助(江戸)・鉛屋安兵衛(京)板、影印早大HP、参照早大。作者は大坂の人。芝居好きの人々による当時の芝居に関する会話を描く。

方言競茶番種本 むだくらべちやばんのたねほん、一冊、十返舎一九作、歌川国直画、一九自序、藍庭晋采清書、鶴屋金助(江戸)板、影印早大、注浄瑠璃七行本風。明治十九版(小泉佐吉(東京))あり。参照蓬左・早大。浄瑠璃好きの浪人酒本吞太夫のおこすドタバタを記す。

願懸注文帳 がんかけちゆうもんちよう、一冊、東西庵南北作、柳川重信画、山崎平八・西村与八(江戸)板、影印早大、注蓬左本の刊記十二年。早稲田本の刊記十四年。ただし、蓬左本には丁子屋平兵衛(江戸)・大野木市兵衛(大坂)・丁子屋源次郎(京)の刊記がさらについている。中心書肆は見返しから山崎平八、参照蓬左・早大。花街、堀之内詣(瘡毒なおし)、目黒参

りの三つの願掛について関係する人々を描く。

続膝栗毛六編 ぞくひざくりげろくへん、二巻二冊、十返舎一九作、河内屋太助(大坂)・鶴屋金助(江戸)板、影印続膝栗毛文芸集成5、翻刻帝国文庫9・近代文芸叢書滑稽文学全集・近代日本文学大系18・名著全集22・23、参照膝栗毛文芸集成5(底本都立中央本)。木曾街道。大井から落合。

(堀之内滑稽)馬方蕎麦 うまかたそば、一冊、瓢箪園一寸法師(西来居末仏)作、喜多川歌麿(二代)画、影印膝栗毛文芸集成18、注版元不明、日本古典籍総合目録データベースでは人情本扱い、参照都立誌料。葛飾から堀之内参詣し淀橋まで。

文化十三年(一八一六)

(津島土産後編)滑稽祇園守 こっけいぎおんまもり、二巻二冊、石橋庵増井作、玉僊画、十返舎一九序(文化十二)、河内屋太助(大坂)・鶴屋金助(江戸)・松屋善兵衛(名古屋)板、影印膝栗毛文芸集成17、注(津島土産)膝栗毛として明治二十二に栗田奴以・若山文二郎(名古屋)の刊行あり。参照蓬左。『津島土産』(文化十一刊)の続編。津島街道に出たところより牛頭天王社への参詣、津島宿への宿泊まで。

誹語堀之内詣 はいごほりのうちもうで、二巻二冊、十返舎一九作、自序、角丸屋甚助・三崎屋清助・三崎屋文治郎・村田屋治郎兵衛〈江戸〉（東洋大学古典文庫）板、影印早大HP、翻刻藤栗毛文芸集成12・古典文庫433、注後編に「雑司ヶ谷記行」あり。伝本は古典文庫解説や藤栗毛文芸集成解題が詳しい。蓬左本は二冊本（美濃屋伊八〈名古屋〉・角丸屋甚助〈江戸〉・三崎屋清助〈江戸〉・三崎屋文治郎〈江戸〉・村田屋治郎兵衛〈江戸〉）。都立本は三冊本。二冊本が先。三冊本（須原屋茂兵衛・須原屋伊八）のほうがよく売れた、参照蓬左・都立中央。堀之内詣を題材とするが内容は小咄集の要素が強い。

茶番楽屋 ちゃばんがくや、桜川慈悲成作、歌川国直画、和泉屋市兵衛・伊勢屋忠右衛門・大黒屋源蔵〈江戸〉板、翻刻帝国文庫滑稽名作集下、参照蓬左。茶番の支度の楽屋裏をみせる滑稽本。茶番の解説書の役割も果たすが、茶番の解説が中心となり、人物描写は平板。

続藤栗毛七編 ぞくひざくりげしちへん、二巻二冊、十返舎一九作、河内屋太助〈大坂〉・鶴屋金助〈江戸〉板、影印藤栗毛文芸集成5、翻刻翻刻帝国文庫9・近代文芸叢書滑稽文学全集・近代日本文学大系18・名著全集22・23、参照藤栗毛文芸集成5（底本都立中央本）。木曾街道。野尻より本山。

続藤栗毛八編 ぞくひざくりげはちへん、二巻二冊、十返舎一九作、河内屋太助〈大坂〉・村田屋治郎兵衛・伊勢屋忠右衛門・鶴屋金助・伊藤弥兵衛〈江戸〉板、影印藤栗毛文芸集成6、翻刻翻刻帝国文庫9・近代文芸叢書滑稽文学全集・近代日本文学大系18・名著全集22・23、参照藤栗毛文芸集成6（底本都立中央本）。木曾路より善光寺道。本山から満願寺を経て大町。

（名護屋見物 四編之綴足二編 しへんのとじたりにへん、二冊、東花元成作、北亭墨僊（牧墨僊）画、自序、美濃屋伊六・松屋善兵衛・永楽屋東四郎〈名古屋〉・秋田屋太右衛門〈大坂〉・鶴屋金助〈江戸〉板、影印藤栗毛文芸集成18、翻刻名古屋叢書文学編一、参照蓬左。前編（文化十二刊）の続編。弥次喜多の名古屋見物。

文化十四年（一八一七）

詮気譚 うつけものがたり、一冊、油断舎戻作、春川五七（神屋蓬洲）画、自序、河内屋太助〈大坂〉・鶴屋金助〈江戸〉板、注見返題「詮気譚」、参照蓬左。鶴岡八幡宮での桜狩で柿八と猿松のおこす騒動を描く。

奥州道中之記 おうしゅうどうちゅうのき、二冊、十返舎一九作、自序・千柳亭から磨跋、鶴屋金助・伊勢屋忠右衛門〈江戸〉板、影印藤栗毛文芸集成12、翻刻古典文庫569、注角書「旧観帖

発端」、参照蓬左。旧観帖で江戸見物する奥州者の前日譚。仙台から桑折宿までの旅。

栗毛後駿足初編 くりげのしりうましょへん、二巻二冊、滝亭鯉文作、歌川国直画、柳亭種彦序、影印膝栗毛文芸集成19、翻刻帝国文庫滑稽名作集、注天保三・四年に『(大山道中) 膝栗毛』題の再版本出る、参照国会。膝栗毛物。江戸っ子二人の大山参り。初編は浅草から信楽(神奈川県)まで。

笑戯自知録 しょうぎじちろく、五巻二冊、半田山人作、北尾重政画、竹窓軒虎丸・奥羽陳人序、勝村治右衛門(京)・河内屋喜兵衛(大坂)・須原屋茂兵衛・須原屋伊八・須原屋新兵衛・山城屋佐兵衛・岡田屋嘉七・英屋大助・和泉屋庄治郎・和泉屋金右衛門(江戸)板、注明和七『一子相伝極秘巻』の改題本。刊記は幕末のもの。参照都立中央誌料。教訓的な短話集。

大千世界菜屋探 だいせんせかいがくやさがし、三巻三冊、式亭三馬作、歌川豊国画、鶴屋金助(江戸)板、影印早大HP、翻刻新日本古典文学大系86、注前川忠右衛門板の天保六版あり、参照早大。「熊谷と敦盛と一谷組討の実説」「一切精霊玉蘭盆会の述懐」「鬼瓦とかざみ烏の夕涼」の三話。当時の事典の人倫、雑、器財の部からとったとする。

忠臣蔵縁起式 ちゆうしんぐらえんぎしき、二冊、村上某作、伏見屋半三郎(京)・播磨屋五兵衛(大坂)板、注国会本は旧大惣本。参照国会。忠臣蔵にまつわる宝合物。

四十八癖三編 しじゅうはちくせさんへん、一冊、式亭三馬作、柳川重信画、自序、鶴屋金助(江戸)板、翻刻新潮古典文学集成、参照蓬左。癖をテーマにした会話体短編集。

文化十五年／文政元年(二八一八)

四十八癖四編 しじゅうはちくせしへん、一冊、式亭三馬作、歌川美丸画、自序、鶴屋金助(江戸)板、翻刻新潮古典文学集成、参照新潮古典文学集成。癖をテーマにした会話体短編集。

栗毛後駿足二編 くりげのしりうましょへん、二巻二冊、滝亭鯉文作、歌川国直画、自序、影印膝栗毛文芸集成19、注天保三・四年に『(大山道中) 膝栗毛』題の再版本、参照膝栗毛文芸集成(国学院大学)。膝栗毛物。江戸っ子二人の大山参り。生麦から境木の立場まで。

文政二年(一八一九)

(水中魚論) 岡釣話 おかづりばなし、二巻一冊、岡山鳥作、錦亭鳴虫画、自序、鶴屋喜右衛門・堺屋国蔵(江戸)板、翻刻帝国文庫珍本全集下、注外題「丘釣話」、見返しから主版元は堺屋。

国会本は旧大惣本。参照国会。釣り人のほか、釣道具や魚らの会話。

本草盲目集 ほんぞうもうもくしゅう、一冊、東西庵南北作画、自序、和泉屋市兵衛〈江戸〉板、影印東大霞亭HP、参照東大霞亭。造物を扱った見立絵本の戯作。忠臣蔵に限らない。

続膝栗毛九編 ぞくひざくりげくへん、二巻二冊、十返舎一九作、河内屋太助〈大坂〉・村田屋治郎兵衛・伊勢屋忠右衛門・鶴屋金助・伊藤弥兵衛〈江戸〉板、影印膝栗毛文芸集成6、翻刻帝国文庫9・近代文芸叢書滑稽文学全集・近代日本文学大系18・名著全集22・23、参照膝栗毛文芸集成6（底本都立中央本）。善光寺道中。大町より善光寺参詣。

文政三年（一八二〇）

続膝栗毛十編 ぞくひざくりげじゅうへん、二巻二冊、十返舎一九作、河内屋太助〈大坂〉・村田屋治郎兵衛・鶴屋金助・伊藤弥兵衛〈江戸〉板、影印膝栗毛文芸集成6、翻刻帝国文庫9・近代文芸叢書滑稽文学全集・近代日本文学大系18・名著全集22・23、参照膝栗毛文芸集成6（底本都立中央本）。上州草津温泉道中。善光寺から草津を経て長原へ。

滑稽道中雲助噺 こっけいどうちゅうくもすげばなし、三巻三冊、暁鐘成作画、毅輔序（文政二）、鶴屋金助〈江戸〉・松屋善兵衛〈名古屋〉・鉛屋安兵衛〈京〉・河内屋太助〈大坂〉板、注国会本は旧大惣本。内題角書「芝翫土産」、参照国会。『芝翫栗毛』と同じく、初代中村芝翫を主人公とする役者膝栗毛物。

雑談紙屑籠初編 ぞうだんかみくずかごしよへん、三巻三冊、十返舎一九作、北尾美丸画、鶴屋金助・亀屋喜兵衛〈江戸〉板、翻刻滑稽文学全集六・古典文庫486、注後編は「反古張障子」が別名。早稻田本は無刊記。蓬左本は河内屋茂兵衛〈大坂〉板で文政六刊。参照蓬左・早大。浮世草子風の作。親仁や息子、旅芝居坊主に若後家、嫁姑の話でそれぞれ一卷。

忠臣蔵楽屋問答 ちゅうしんぐらがくやもんどう、二巻二冊、十返舎一九作、歌川国直画、三鹭序、丸屋文右衛門〈江戸〉板、注忠臣蔵岡目評判の改題本。序文・挿絵など入れ替えあり。参照国会。

花暦八笑人初編 はなごよみはつしょうじんしよへん、二巻二冊、滝亭鯉文作、溪斎英泉・歌川国直画、琴通舎英賀序、大島屋伝右衛門〈江戸〉板、影印早大HP、翻刻岩波文庫・有朋堂文庫・講談社文庫、参照蓬左・早大。左次郎らのうらく者八人の茶番の馬鹿騒ぎを描くシリーズ。飛鳥山で偽の敵討のふりを

して聴衆の目を引こうとするが本物の武士に助太刀されて失敗する。落語「花見の仇討」の原型。

狂歌著聞集 きょうかちよもんしゅう、五巻五冊、石川雅望作、翻刻滑稽文学全集八、注全揃はない。九大（巻三まで）。石川雅望の知る狂歌師の逸話集。

文政四年（一八二一）

花暦八笑人二編 はなごよみはつしょうじんへん、二巻二冊、滝亭鯉丈作、溪斎英泉・歌川国直画、大島屋伝右衛門（江戸）板、影印早大H P、翻刻岩波文庫・有朋堂文庫・講談社文庫、参照蓬左・早大。向島で狂人のふりをして保名の狂乱の所作に持ち込むつもりが失敗する。

無飽三財図会初編 あかんさんさいいずえしよへん、三巻三冊、暁鐘成作画、自多楽斎真鍮納言七盛序・暁鐘成跋、翻蝶庵（大坂）板、影印早大H P、注京大頼原本は忠雅堂赤志忠七（大坂）板、参照早大。和漢三才図会パロディ本。

（裏舖滑稽）鳥歌話 からすがわ、二冊、伴中義作・春川五七校、春川五七（神屋蓬洲）画、山田屋五兵衛（京）板、翻刻尾崎久弥『珍書愚書』、参照蓬左。裏長屋の騒動を描いた長屋物。

雑司ヶ谷記行 ぞうしがやきこう、二巻二冊、十返舎一九作、自序・東寧舎跋、伊藤与兵衛（江戸）（東洋大学古典文庫）板、影印藤栗毛文芸集成12、翻刻統帝国文庫統一九全集・文芸叢書四・古典文庫433、注角書「堀之内詣後編」、都立中央本が宝集堂大和屋喜兵衛（江戸）板、『千社の多和武連』と題する本もある、参照藤栗毛文芸集成12（東洋大学古典文庫）・都立中央。文化十三刊『誹語堀之内詣』の続編。前編の登場人物佐次兵衛が雑司ヶ谷の鬼子母神を参詣する。前編と同じく小咄の連作で構成される。

茶番狂言早合点初編 ちゃばんきょうげんはやがてんしよへん、一冊、式亭三馬作、歌川国貞画、自序、西宮新六（江戸）板、影印東大霞亭H P、翻刻新日本古典文学大系82（底本蓬左）、注新大系では「茶番早合点」で収録、参照蓬左。茶番の教科書。茶番の起源や演じ方および台本を収録。

当世医者風流解初編 とうせいいしやふりげしよへん、三巻三冊、横谷南海作、河内屋茂兵衛（大坂）・美濃屋平兵衛・河南喜兵衛（江戸）板、参照蓬左。片田舎の医者厚釜敷安が都に上り、流行医者に入門する。患者のはぐらかしかたや機嫌の取り方などが教えられ、当時の医者への皮肉がうかがえる。

(ぬしにひかれて) 善光寺参詣 ぜんこうじまいり、二卷二冊、岡山鳥作、歌川貞房画、自序、鶴屋金助・堺屋国蔵(江戸)板、影印藤栗毛文芸集成18、翻刻江戸文芸信濃小説集、参照蓬左。信州塩尻旅籠宿を舞台にした洒落本めいた滑稽本。題名と異なり藤栗毛物とはいいがたい。

慾の川乗合ばなし よくのかわのりあいばなし、一冊、十返舎一九作、北尾美丸(二代重政)画、鶴屋金助(江戸)板、翻刻続帝国文庫一九全集、参照蓬左。草双紙風。『雑談紙屑籠』と同様に浮世草子的な話が全九話。

続藤栗毛十一編 ぞくひざくりげじゅういちへん、二卷二冊、十返舎一九作、河内屋太助(大坂)・村田屋治郎兵衛・鶴屋金助・伊藤弥兵衛(江戸)板、影印藤栗毛文芸集成7、翻刻帝国文庫9・近代文芸叢書滑稽文学全集・近代日本文学大系18・名著全集22・23、参照藤栗毛文芸集成(底本都立中央本)。中山道中。長原から藤木。

文政五年(一八二二)

続藤栗毛十二編 ぞくひざくりげじゅうにへん、三卷三冊、十返舎一九作、河内屋太助(大坂)・村田屋治郎兵衛・鶴屋金助・伊藤弥兵衛(江戸)板、影印藤栗毛文芸集成7、翻刻帝国文庫9・近代文芸叢書滑稽文学全集・近代日本文学大系18・名著全

集22・23、参照藤栗毛文芸集成7(底本都立中央本)。中山道中。本庄から江戸へ。

世の中貧福論後編 よのなかひんぶくろんこうへん、三卷三冊、十返舎一九作、竜斎正澄画、角丸屋甚助・丁子屋平兵衛・鶴屋金助・大橋文蔵(江戸)板、翻刻近代日本文学大系十返舎一九集・帝国文庫滑稽名作集下、参照国文研。前編で貧富が逆転するが、結局それがまたもとに戻ってしまう。

栗毛後駿足三編 くりげのしりうまさんへん、二卷二冊、滝亭鯉文作、歌川国直画、池文東序、影印藤栗毛文芸集成19、翻刻鈴木圭一『國學院雑誌』九十四卷十二号、注角書「大山道中」。天保三・四年に『(天山道中)藤栗毛』題の再版本、参照藤栗毛文芸集成(国学院大学)。江戸っ子二人の大山参り。境木の立場から車田と四谷の間の松並木まで。

雑談紙屑籠後編 ぞうだんかみくずかごこうへん、三卷三冊、十返舎一九作、北尾美丸画、自序、鶴屋金助・亀屋喜兵衛(江戸)板、翻刻滑稽文学全集二・古典文庫486、注「反古張障子」が別名で単独書名に思われている。神宮文庫本が河内屋茂兵衛(大坂)板、早稲田本は無刊記。蓬左本は河内屋茂兵衛(大坂)板で文政六刊。参照蓬左・早大。浮世草子風の作。序からすれば八文字自笑『反古張団扇』にもとづくか。

当世医者風流解二編　とうせいいしやふりげにへん、三卷三冊、横谷南海作、河内屋茂兵衛〈大坂〉・美濃屋平兵衛・河南喜兵衛〈江戸〉板、参照国会。前編に続き、患者のはぐらかしかたや機嫌の取り方などが記される。

癩癬談　くせものがたり、二卷二冊、上田秋成作、森川竹窓序、近江屋治助〈京〉・前川六左衛門〈江戸〉・河内屋茂兵衛・河内屋平七・今津屋辰三郎〈大坂〉板、注岩瀬本外題「くせものかたり」、翻刻新潮古典集成、上田秋成全集8、参照岩瀬文庫。伊勢物語のパロディを基調にしつつ当時の人物や世相への皮肉を述べた。成稿は寛政五頃。

文政六年（一八二三）

浮世床三編　うきよどこさんへん、滝亭鯉文作、大島屋伝右衛門〈江戸〉板、翻刻小野武雄校註『浮世床』（展望社）。鯉文が引き継いだ浮世床だが、内容は茶番小説になった。

花暦八笑人三編　はなごよみはっしょうじんさんへん、三卷三冊、滝亭鯉文作、溪斎英泉・歌川国直画、大島屋伝右衛門〈江戸〉板、影印早大H P、翻刻岩波文庫・有朋堂文庫・講談社文庫、参照蓬左・早大。両国で身投げのふりから竜宮の玉取の趣向。統編の「追加」と合わせて一話。

宝船七福話　たからぶねしちふくぼなし、一冊、岡固存作、溪斎英泉画、注文政十版あり。

和合人初編　わごうじんしょへん、三卷三冊、滝亭鯉文作、溪斎英泉画、大島屋伝右衛門・丁子屋平兵衛・葛屋重三郎・西村屋与八郎・越前屋長次郎・鶴屋金助〈江戸〉板、影印早大H P、翻刻有朋堂文庫・滑稽文学全集5・滑稽名作集上、注北上図は文化十五刊、秋田屋太右衛門版とする。岐阜大本は西村屋与八・丁子屋平兵衛〈江戸〉板。蓬左本見返しから大島屋と丁子屋が出版の中心だったか。参照蓬左。仲良し仲間のいたずら小説。和次郎の友人三人が和次郎にいたずらをしかけたまま眠ってしまい、和次郎らに逆襲される。

滑稽磨磨毛　こっけいへそすりげ、三卷三冊、嘴天狗百癡（馬田柳退）作・暁鐘成校、曲亭馬琴・暁鐘成序（文政四）、真間野川成跋（文政六）、藍江画、影印膝栗毛文芸集成19、翻刻未刊江戸文学7、注刊年跋文より推定、参照蓬左。大坂作者。与太郎と万八が大坂見物するのが前半、後半は長崎目指して旅立ち兵庫まで進む。

文政七年（一八二四）

花暦八笑人三編追加 はなごよみはつしようじんさんへんついか、二巻二冊、滝亭鯉文作、溪斎英泉・歌川国直画、大島屋伝右衛門・鶴屋金助・越前屋長次郎（江戸）板、影印早大H P、翻刻岩波文庫・有朋堂文庫・講談社文庫、参照蓬左・早大。三編の続き、玉取の趣向で橋から飛び込もうとするが止められ、無理に飛び降りるも西瓜舟に落ちて失敗する。

茶番狂言早合点二編 ちゃばんきょうげんはやがてんにへん、二巻二冊、式亭三馬作、歌川国真画、好屋翁（四方真顔）序、西宮新六（江戸）板、翻刻新日本古典文学大系82、注新大系では「茶番早合点」で収録、参照蓬左。初編のような概説はなく、茶番の台本集となった。

（浮世心学）夜見世濫觴 よみせのはじまり、一冊、東西庵南北作画、円寿堂（丸屋甚八）（江戸）板、影印早大H P、注草双紙風、参照都立中央・早大。両国あたりの見世物が題材。「力持」「鬼女」など十一の見世物を扱う。

牛島土産 うしじまみやげ、三巻三冊、滝亭鯉文作、溪斎英泉画、南仙楚楚満人序、越前屋長次郎・大島屋伝右衛門・鶴屋金助（江戸）板、翻刻滑稽文学全集四、注序文からすれば青林堂越前屋長次郎が版元の中心。参照蓬左。和合人と同様のいたず

ら小説。牛島辺に住む地山なる者が隠居にいたずらをしかける。

旅枕浦青海後編 たびまくらうらのあおうみこうへん、二巻二冊、彦玉作、藍月画、河内屋大助・今津屋辰三郎（大坂）板、注『播州巡り』旅枕浦青海の後編。参照阪大忍頂寺。江戸っ子二人の播州めぐり。一ノ谷から明石城下へ、曾根天神、高砂宮、別府の松など名所を巡る。

長唄馬歌集 ながうたばかしゅう、一冊、粹川子（西村定雅）作、もしほ屋主人序・自序、吉野屋仁兵衛・吉野屋勘兵衛・山城屋佐兵衛（京）・玉屋市兵衛（大坂）板、翻刻石川巖『三都洒落本』、参照阪大忍頂寺。長唄形式で妓楼関係のことを詠んだ作品。

麻疹瘡語 ましんせんご、一冊、乍昔堂花守作、狂歌堂主人（四方真顔）序、無刊記、影印・翻刻早大H P。参照早大。『麻疹戲言』のような麻疹あてこみ本。

楊弓一面大当利 ようきゅういちめんおあたり、三巻三冊、岡山鳥作、溪斎英泉作、鶴屋金助・伊勢屋忠右衛門（江戸）板、注改題本に天保三刊『的中新話』、参照蓬左。鎌倉時代の楊弓場に来る客たちを描く。

文政8年～文政10年

文政八年（一八二五）

白癡物語 しれものがたり、二巻二冊、遠藤春香（春足）作、石川雅望序・自序、西村屋与八（江戸）板、参照早大。作者は阿波国人。一話一丁程度の短編集。「某の家人等耳したかひたる女におびやかされたる事」「某の尼鳴門見にゆききたる事」など全五十話。

文政九年（一八二六）

稽古三弦 けいこしやみせん、三巻五冊、式亭三馬稿・楚満人（為永春水一世）校正、歌川国直画、古今亭三鳥序、西村与八・大阪屋茂吉（江戸）板、参照長野県短大。三味線の稽古所に通う人々の会話を描く。

鶏が啼東都暁 とりがなくあずまのあさおき、三巻三冊、盛田小塩作、歌川豊秀画、河内屋平七（大坂）・丁子屋源治郎（京）板、参照蓬左。江戸者と京者のやりとりを描く。

（戯訓）貧福太平記初編 ひんぶくたいへいきしよへん、二巻二冊、平安堂菓林翁稿・近松はるのや洛東まぬけ庵主人補、森川飄々画、栗本伊賀丸序・はるの屋序・稲乃屋跋、山城屋佐兵衛・丸屋善兵衛・舟屋宗兵衛（京）・美濃屋清七（尾張）・大坂屋茂七（江戸）・河内屋長兵衛・河内屋茂兵衛（大坂）板、翻刻通俗経済文庫一〇、注瑞錦堂（丸屋）と文正堂の合梓、参照岩瀬

文庫。貧者と富者の盛衰を太平記のような軍記物風に描いた作品。

文政十年（一八二七）

有馬紀行 ありまぎこう、二巻三冊、大根土成作、福智白瑛画、笹着舎のあるじ序・文暉堂跋、本屋宗七・山城屋佐兵衛（京）・大阪屋茂吉（江戸）・美濃屋伊八（名古屋）・河内屋茂兵衛（大坂）・住吉屋弥兵衛（堺）板、影印藤栗毛文芸集成20、翻刻坂耀子『江戸温泉紀行』、注版元は蓬左本による。参照蓬左。京男と東国からの居候の二人が京五条から有馬温泉で遊ぶまで。

妹背の門松 いもせのかどまつ、一冊、黄花狂士作、森川高国画、無刊記、注草双紙形式。滑稽本といたい内容。参照蓬左。

滑稽纏の綱初編 こっけいぜんのつなしよへん、三冊、桃山人（梨園滑稽）其儘草紙、そのままそうし、二冊、恵陽陳人（駄亭駒人）作、歌川国安画、伊藤与兵衛・美濃屋甚三郎（江戸）板、注国会本旧大惣本。参照国会。演劇話題。

（桃花園三千麴）作、注東博所蔵。

滑稽鈍癡奇論 こっけいとんちきろん、三巻三冊、岳亭山人（岳亭定圃）作、一筆齋英寿（景齋英寿）画、河内屋長兵衛（大坂）・西村屋与八・伊勢屋忠右衛門（江戸）板、参照抱谷。和合人のようなたわむれ物。

文政十一年（一八二八）

花暦八笑人四編 はなごよみはつしょうじんしへん、滝亭鯉丈作、溪齋英泉・歌川国直画、大島屋伝右衛門（江戸）板、影印早大HP、翻刻岩波文庫・有朋堂文庫・講談社文庫、注蓬左本は西村与八と大島屋伝右衛門板。参照蓬左・早大。前半は釣狐の蛭狩の茶番の相談。後半は一転して賀の祝いに頼まれた忠臣蔵五段目の稽古。

滑稽稽の綱二編 こっけいぜんのつなにへん、三冊、桃山人（桃花園三千麿）作。

滑稽水滸伝 おどけすいこでん、三冊、陽春閣作、北尾重政（二代）・宝田千町画。

滑稽花の生酔 こっけいはなのなまよい、二冊、油断舎戻作、弓手丸跋、山城屋佐兵衛（京）・河内屋茂兵衛（大坂）・西村屋与八・伊勢屋忠右衛門・大阪屋茂吉（江戸）・美濃屋清七（名古屋）板、注黄花狂士補。文化十四刊『詮気譚』の改題再版本。

版元は蓬左本による。参照蓬左。

文政十二年（一八二九）

刃楚我茶話 へそがちゃわ、三冊、十返舎一九作、注滑稽忠臣蔵とも『田舎草紙』の改題再版本。書誌は古典文庫497『田舎草紙』解題が詳しい。

浮世名所図会 うきよめいしよずえ、二冊、奥山四娟作、円洲画、平亭銀鷄跋、無刊記、翻刻帝国文庫滑稽本名作集下、参照蓬左。「人目の関」「子すてる藪」など全二十四箇所の名所に皮肉な解釈をつける。

巨慶三笑 こけいのさんしょう、三冊、文東陳人（昇亭岐山）作、菱川政信画、長門屋嘉七板。

滑稽甲子待 こっけいきのえねまち、五巻五冊、立川焉馬（鳥亭焉馬二代）作、歌川国直画、西来居主人未伝序、丸屋善兵衛・山城屋佐兵衛（京）・西村屋与八（江戸）・河内屋長兵衛（大坂）・住吉屋弥三郎（堺）板、参照国会。田舎芝居物。稽古の場面を面白く描くことに集中している。

売色安本丹 ばいしよくあんぼんたん、三冊、十返舎一九作画、自序、西村屋与八・中村屋幸蔵（江戸）板、翻刻絵本稗史小説

六・滑稽文学全集六、注玉川大本は河内屋茂兵衛〈大坂〉を版元にする。参照岩瀬。播州鶉野に住む売薬店主安本丹吉と遊女濱風は親しくなるが丹吉は亡くなる。それから幽霊となった丹吉をめぐる話。

三升栗毛 みますくりげ、二卷二冊、浜村輔（黙亭駒人）作、柳斎重春画、楠里亭主人序、鶴屋喜右衛門〈江戸〉・鉛屋安兵衛〈京〉・河内屋直助・河内屋太助〈大坂〉板、注国会本は旧大惣本。参照国会。三升関係、市川団十郎が江戸から中山道を経由して高野山詣や京坂旅行をする役者膝栗毛物。

妙々奇談 みようみようきだん、正編二卷二冊後編二卷二冊、周滑平（大河原亀文）作、文政十二頃刊か、伊丹屋善兵衛・河内屋源七・河内屋喜兵衛〈大坂〉、菱屋藤兵衛・菱屋平兵衛〈名古屋〉、須原屋茂兵衛・山城屋佐兵衛・小林新兵衛・岡田屋嘉七・和泉屋市兵衛・和泉屋金右衛門・須原屋伊八・梶屋喜兵衛〈江戸〉板、注正編は文政二頃後編は文政四頃の成立か。上田花月本は明治版。妙々奇談一二編と後夜の夢を一連の作品とする。参照上田花月。伝説的な故人や神仏が登場して、現世の著名人を批判する。

文政十三年／天保元年（一八三〇）

妙々奇談弁正 みようみようきだんべんせい、二卷二冊、藪庵

言孫子作、文政十二序、無刊記、注前編二卷後編二卷四冊、参照石川李花。妙々奇談物。

妙々奇談弁々正 みようみようきだんべんべんせい 五覽通・無曇鏡作、野做芳序、参照加賀聖藩。妙々奇談物。

論妙々奇談 ろんみようきだん、一冊、両国之近所先生作、文政十二序、無刊記、参照石川李花。妙々奇談物。

御蔭参宮倭邯鄲 おかげまいりやまとかんたん、三卷三冊、表野黒人作・翁齋屋也校正、案山子序、無刊記、影印早大HP、注挿絵彩色、早大では艶本扱い。参照早大。上方作者。世中屋夢助という旦那客の伊勢参りと古市遊郭での遊びを記す。

〔御影参宮 三宝荒神 さんぼうこうじん、三卷三冊、表野黒人作・翁齋蛭成校、丁子屋平兵衛〈江戸〉板、参照蓬左。大坂者三人の伊勢参宮。松坂から始まり両宮のほか磯部宮まで巡る。〕

御影参宮三宝荒神 おかげまいりさんぼうこうじん、三卷三冊、滝野登鯉作、滝亭鯉丈校、歌川国芳画、丁子屋平兵衛〈江戸〉板、注『御影参宮 三宝荒神』の改題本らしい。翻刻増補大神宮叢書23。

同行百人一宿大土佐草 どうぎようひやくにんいつしゅおおど
さくさ、一冊、高橋仙栗(笠亭仙果)作、本屋久八(不明)板、
注岩瀬に自筆稿本、参照蓬左・国会。往来物パロディ。

天保二年(一八三二)

宝合図説 たからあわせずせつ、一冊、文屋安雄作、田原米主
画、無刊記、翻刻賞奇楼叢書一期、複製稀書複製会六期、刊年
跋より。参照蓬左。『狂文宝合』のような本。

(辛卯春興) 蝙蝠考 かわほりのかんがえ、一冊、笠亭仙果作画、
英大助(江戸)・菱屋亦兵衛(京)板、注草双紙形式。国会本
は旧大惣本。版元は表紙から。参照国会

続々膝栗毛初編 ぞくぞくひざくりげしよへん、二巻二冊、十
返舎一九作、歌川国直画、丁子屋平兵衛・平林庄五郎・西村源
六・美濃屋甚三郎(江戸)(東洋大学古典文庫)板、影印早大HP・
膝栗毛文芸集成8、翻刻江戸軟派叢書五・江戸軟派叢書六・日
本名著全集膝栗毛其他下、注静岡市木村本のように美濃屋甚三
郎を版元とする本もある。早大本・蓬左本は和泉屋市兵衛・平
林庄五郎(江戸)板、参照早大。長屋物。江戸に戻ってきた弥
次喜多の日常を描く。

続々膝栗毛二編 ぞくぞくひざくりげにへん、二巻二冊、十返
舎一九作、歌川国直画、丁子屋平兵衛・西村源六・和泉屋利兵
衛・西村与八・美濃屋甚三郎(江戸)(東洋大学古典文庫)板、影
印早大HP・膝栗毛文芸集成8、翻刻江戸軟派叢書五・江戸軟
派叢書六・日本名著全集膝栗毛其他下、注静岡市木村本のよう
に美濃屋甚三郎を版元とする本もある。早大本・蓬左本は和泉
屋市兵衛・平林庄五郎(江戸)板。参照早大。長屋物。江戸に
戻ってきた弥次喜多の日常を描く。

(国恩教諭) 湊のさかえ みなとのさかえ、二巻二冊、暁鐘成作
画、塩屋喜助(大坂)板、参照国会。天保の安倍川の大川浚を
題材にし、そこで働く人夫らの会話を描く。

天保三年(一八三三)

当見席眼臺 あててみるざしきめかずら、二巻二冊、春川五七
(神屋蓬洲)作画、秋田屋藤六(京)板、注蓬左は「出度良目草」
題、参照蓬左。

滑稽駅路梅 こつけいえぎろのうめ、三巻三冊、石橋庵増井作、
梅亭華溪画、山城屋佐兵衛(京)・松屋善兵衛・玉野屋新右衛門・
本屋忠三郎(名古屋)板、影印膝栗毛文芸集成21、参照蓬左。
名古屋・伊勢をめぐる膝栗毛物。

滑稽枯木の花 こっけいかれきのはな、一冊、三笑亭可楽作、歌川国芳画、五返舎半九序、濱名氏〈江戸〉板、参照蓬左。浅草住の二人が稲毛の枯れ松に参詣する膝栗毛物。

(浮世道中) 宿屋栗毛 やどやくりげ、二巻二冊、九牛舎一毛作、影印膝栗毛文芸集成22、注版元は不明、参照専大向井。坂東三津五郎と瀬川菊之丞の追善作。冥途におもむく二人に十返舎一九がかかわる。

天保四年(一八三三)

(薬疫合戦) 平復談 へいふくだん、二巻二冊、大癖山偏屈居主人作、天保三序、刊年は推定。

初昔茶番出花 はつむかしちゃばんのてばな、二巻二冊、桜川一声作、桜川慈悲成校合、歌川国芳・逸見一信画、和泉屋市兵衛〈江戸〉板、翻刻原典落語集、注見返しに「早合点三編」。国文研本は菊屋幸三郎〈江戸〉板。参照蓬左。九番の口上茶番を記す。

変宅論 へんたくろん、二巻二冊、山月庵主人(瀬川恒成)作、菱川清春画、自序、河内屋長兵衛〈大坂〉・金屋吉兵衛〈京〉板、注序によれば弘知堂が版元を中心。参照蓬左。半分粹という半可通が近隣住民と起こす騒動を描いた長屋物。

三時行脚 みときあんぎや、二巻二冊、山路庵棟日作、桂窓杜杖校、為楽画、西澤鳳堂〈大坂〉板、翻刻『註釈 滑稽三時行脚』、影印膝栗毛文芸集成21、参照蓬左。大和住まいの二人が大和近在の百社参りをする。

人間万事虚誕計後編 にんげんばんじうそぼつかりこうへん、一冊、滝亭鯉文作、西村与八・美濃屋甚三郎〈江戸〉板、影印早大HP、翻刻滑稽本集一、参照早大。文化十年の三馬作の後編。九つの嘘を載せる。

天保五年(一八三四)

和合人二編 わごうじんにへん、二巻三冊、滝亭鯉文作、溪斎英泉画、西村屋与八・丁子屋平兵衛〈江戸〉板、注刊年は不明だが三編の序に「筆置くこと五六年」とあるので天保五、六年頃と推測しておく。影印早大HP。和次郎らが集まっていたずらの相談。話は二編追加に続く。

花暦八笑人四編追加 はなごよみはつしょうじんしへんつか、滝亭鯉文作、溪斎英泉・歌川国直画、大島屋伝右衛門・西村屋与八〈江戸〉板、影印早大HP、翻刻岩波文庫・有朋堂文庫・講談社文庫、参照蓬左・早大。四編の続き。屋敷で忠臣蔵五段目の素人芝居を上演するが猪の糞に火が付き失敗する。

天保の加波古路毛 てんぼのかわごろも、二冊、木谷舎主人作、天保四序、天保五刊か。立命館林美一のみ。

役者必読妙々痴談返註録 やくしゃひつどくみようみようきだんへんちゅうろく、二巻二冊、烏亭焉馬(二代)作、歌川国貞画、天保四自序、刊年は推定、小善齋蔵板(不明)板、翻刻帝國文庫滑稽本名作集下、注国会本は旧大惣本、参照国会。妙々奇談物。

役者妙々後夜の夢 やくしゃみやみようみようごやのゆめ、二巻二冊、三芝居士(花笠文京)作、両国辺人序(天保四)、無刊記、翻刻帝國文庫滑稽本名作集下、注国会本は旧大惣本。参照国会。妙々奇談物。

虚南留別志 うそなるべし、二巻二冊、木屑庵成貨作、覚蓮房序・自序、丁子屋平兵衛・山田佐助・宮屋源兵衛(江戸)板、参照国会。南留別志パロディ本。いいかげんな語源語義解説や考証を行う。

口上茶番早合点 こうじょうちやばんはやがてん、一冊、五柳亭徳升作、歌川国貞画、川口宇兵衛(江戸)板、参照蓬左。口上茶番本。「仮名手本忠臣蔵」「江戸名所新吉原」「月見寄七福神」など七番の台本を記す。

滑稽鬼靈論 こっけいきれいろん、二巻二冊、山月庵主人(瀬川恒成)作、菱川清春画、河内屋長兵衛(大坂)・山城屋佐兵衛・金屋吉兵衛(京)板、参照蓬左。鬼をテーマにした小咄集。全二十話。

滑稽高野詣前編 こっけいこうやもうでぜんべん、二巻二冊、紀之暹道作、柳川重春・春江齋北英画、綿屋喜兵衛・綿屋平兵衛(大坂)板、影印膝栗毛文芸集成23、注天保五年の弘法大師一千年忌にあわせた企画、三編が出たのち三編の版元秋田屋が入った再版本がある、参照蓬左。大坂者二人の高野詣。心齋橋から福町村まで。

滑稽高野詣二編 こっけいこうやもうでにへん、三巻三冊、紀之暹道作、春江齋北英画、秋田屋源兵衛(大坂)板、影印膝栗毛文芸集成23、注原版刊記は天保四年だが誤記であろう天保五か、近日に三編を出す予告がある、参照蓬左。大坂者二人の高野詣。福町村から橋本。

滑稽高野詣三編 こっけいこうやもうでさんへん、三巻三冊、紀之暹道作、春江齋北英画、影印膝栗毛文芸集成23、注無刊記で刊年は推定、四編の予告があるが未刊、参照蓬左。大坂者二人の高野詣。橋本から参詣まで。

(教訓) 道外実語教 どうけじつごきょう、一冊、宝田千町作、森屋治兵衛〈江戸〉板、参照上田花月。実語教のパロディ。

天保六年（一八三五）

街能噂 ちまたのうわさ、四巻四冊、平亭銀鶏（畑銀鶏）作、歌川貞広画、鶴屋喜右衛門〈江戸〉・鉛屋安兵衛〈京〉・河内屋太助〈大坂〉板、影印東大霞亭H P、翻刻浪速叢書14、注統編があるが稿本のまま未刊、参照東大霞亭・国会。大坂と江戸の風俗比較を滑稽本仕立ての会話体小説にしたもの。

天保七年（一八三六）

(浮世酒屋 喜言上戸 きげんじょうご、三巻三冊、鼻山人作、歌川豊国画、自序、鶴屋喜右衛門・菊屋幸三郎〈江戸〉板、注都立中央誌料本は旧大惣本。参照都立中央誌料。浮世風呂・浮世床式に酒屋に集まる人々の会話を描く。

続々膝栗毛三編 ぞくぞくひざくりげさんへん、二巻二冊、十返舎一九（二代）作、歌川国直画、和泉屋市兵衛・平林庄五郎〈江戸〉板、影印早大H P・膝栗毛文芸集成8、翻刻江戸軟派叢書五・江戸軟派叢書六・日本名著全集膝栗毛其他下、注静岡市木村本のように美濃屋甚三郎を版元とする本もある。早大本・蓬左本も和泉屋市兵衛・平林庄五郎〈江戸〉板。参照早大。弥次喜多の鹿島詣。松戸まで。

天保八年（一八三七）

宝合勢貢之蔵入 たからあわせみつぎのくらいらい、六巻三冊、林屋正蔵作、歌川貞秀画、無刊記、注改題本に「忠臣蔵道化縁記」あり。参照蓬左。宝合物。

昔々百夜噺 むかしむかしももよばなし、一冊、林屋正蔵作、歌川国直画、無刊記。注宝合もの。蓬左には『宝合勢貢之蔵入』があり、同じ本とする。参照蓬左。

天保九年（一八三八）

(滑稽雑談 伊勢土産二見盃 いせみやげふたみさかずき、三巻三冊、滝亭鯉丈作、春川英笑画、西村屋与八・加賀屋源助・大島屋伝右衛門・越前屋長次郎〈江戸〉板、影印早大H P・膝栗毛文芸集成21、刊年は推定、参照早大。江戸の太々講の一行の伊勢参り。雲出から新茶屋まで。

天保十二年（一八四一）

和合人二編追加 わごうじんにへんつか、二巻二冊、滝亭鯉丈作、溪斎英泉画、花笠魯介・全亭寛寿序（天保十二）、影印早大H P、翻刻有朋堂文庫・滑稽文学全集5・滑稽名作集上、注刊年が明確でないため序から天保十二年刊としておく、参照早大。愚慢という利いた風の男を呼んで月見ならぬ日見の会で苦しめる。

和合人三編 わごうじんさんへん、三巻三冊、滝亭鯉丈作、溪齋英泉画、自序（天保十二）、影印早大HP、翻刻有朋堂文庫・滑稽文学全集5・滑稽名作集上、参照早大。扉を遠くからたいて驚かすいたずら。愚慢が入ってきて喧嘩に。一同は日帰り旅を決め、品川方面へ出立。

天保十三年（一八四二）

地廻武志 じまわりぶし、三巻三冊、万亭応賀作、無刊記、参照蓬左。教訓色強く。全体的に談義本調。地獄行きの話を中心に。

天保十四年（一八四三）

教訓御伽草紙初編 きょうくんおとぎそうししよへん、一冊、松亭金水作、歌川保蔵画、注鳥取県図本は虫損が多く無刊記。二編巻下が筑波大にあつて伊勢屋藤八・藤屋宗兵衛（江戸）板、参照国会。歴史故事をあつかった教訓話集。

天保十五年／弘化元年（一八四四）

滑稽絵姿合 こっけいえすがたあわせ、二巻一冊、柳下亭種員作、一勇齋（歌川国芝）画、自序・三亭春馬跋、葛屋重三郎（江戸）板。参照国会。山東京伝『絵兄弟』の模倣作。

（人間一生独案内）善悪道中記初編 ぜんあくどうちゆうきしよへん、一冊、一筆庵主人（溪齋英泉）作画、本屋又助・椀屋喜兵衛

（江戸）板、影印早大HP、参照蓬左。人間の一生とその善悪を道に喩えて道中絵図風に表現したもの。

滑稽五穀太平記 こっけいごこくたいへいき、二巻一冊、戯作舎鬼笑（七文舎鬼笑）作、歌川国直画、山田屋佐助（江戸）板、参照国会。農作物を主人公にした異類合戦物。

（温泉土産）箱根草初編 はこねぐさしよへん、滝亭鯉丈作、溪齋英泉画、河内屋茂兵衛（大坂）・大島屋伝右衛門（江戸）板、影印膝栗毛文芸集成22、翻刻絵本稗史小説一五・帝国文庫滑稽名作集下、注正月刊、参照膝栗毛文芸集成22（國學院大小柴文庫）。江戸っ子三人の箱根湯行き。川崎まで。

（温泉土産）箱根草二編 はこねぐさにへん、滝亭鯉丈作、影印膝栗毛文芸集成22、翻刻絵本稗史小説一五・帝国文庫滑稽名作集下、注七月刊版元不明、参照膝栗毛文芸集成22（國學院大小柴文庫）。江戸っ子三人の箱根湯行き。神奈川宿まで。

弘化二年（一八四五）

（温泉土産）箱根草三編 はこねぐささんへん、為永春水二代作、溪齋英泉画、大島屋伝右衛門（江戸）板、影印膝栗毛文芸集成22、翻刻絵本稗史小説一五・帝国文庫滑稽名作集下、参照膝栗毛文芸集成22（國學院大小柴文庫）。塔ノ沢旅館湯治。

(温泉土産)箱根草四編 はこねぐさしへん、為永春水二代作、影印膝栗毛文芸集成22、翻刻絵本稗史小説一五・帝国文庫滑稽名作集下、注十月刊版元不明、参照膝栗毛文芸集成22(國學院大小柴文庫)。塔ノ沢から宮ノ下旅籠へ。

(浮世談合)膝栗毛 (うきよだんごう) ひざくりげ、二卷二冊、十方舎一丸作画、自序(天保十五序、滑稽堂〈大坂〉板、影印膝栗毛文芸集成24、注正確な刊年は不明。参照蓬左。作者は一九門人。弥次喜多を主人公とし名古屋から京を経て大坂へ旅する。

和合人四編 わごうじんしへん、為永春水作、溪齋英泉画、花笠魯介序(弘化二)、丁子屋平兵衛(江戸)板、影印早大HP、翻刻有朋堂文庫・滑稽文学全集5・滑稽名作集上、参照早大。五・六編の自筆原稿が国会にあり。品川過ぎの茶屋から生麦まで。旅人をからかおうとして逆にだまされる話など。

(下戸質乞)勸善飯初編 かんぜんめししょへん、三卷三冊、十返舎一九三世(三亭春馬)作、歌川貞秀画、柳下亭種員序、上州屋東蔵(大坂)板、注安政四年に竹葉舎金瓶作画上州屋東蔵(大坂)板で二三編が出たというが未見、参照蓬左。独白体短編集。「〇〇の下戸」といった酩酊気質の逆をいく内容。

滑稽水掛論 こっけいみずかけろん、三卷三冊、十返舎一九三世(三亭春馬)作、歌川国直画、山田屋佐助・紙屋徳八(江戸)板、注明治版もあり、参照蓬左・国会。和合人風小説。仲の良い仲間同士のやりとりを記す。

(教訓滑稽)魂胆夢輔譚初編 こんたんゆめすけばなししょへん、三卷三冊、一筆庵主人(溪齋英泉)作画、丁字屋平兵衛(江戸)・河内屋茂兵衛(大坂)他6軒板、翻刻滑稽文学全集6・帝国文庫滑稽名作集、注蓬左本は題簽「滑稽」夢輔譚、刊年は序文から、参照蓬左。魂を交換できる浮世夢輔が諸人と魂を交換する。浮世草子の「豆男」的な内容で、それに勸善懲惡の教訓が加わっている。夢輔はまず猫や鸚鵡と魂を交換する。

(教訓滑稽)魂胆夢輔譚二編 こんたんゆめすけばなしにへん、三卷三冊、一筆庵主人(溪齋英泉)作画、丁字屋平兵衛(江戸)・河内屋茂兵衛(大坂)他6軒板、翻刻滑稽文学全集6・帝国文庫滑稽名作集、注刊年は序文から、参照蓬左。夢輔物。殿様、隠居、俳人らと魂の交換。

弘化三年(一八四六)

(教訓滑稽)魂胆夢輔譚三編 こんたんゆめすけばなしさんへん、三卷三冊、一筆庵主人(溪齋英泉)作画、丁字屋平兵衛(江戸)・河内屋茂兵衛(大坂)他6軒板、翻刻滑稽文学全集6・帝国文

庫滑稽名作集、注蓬左は丁字屋平兵衛（江戸）のみ、参照蓬左。夢輔物。易者兼医者になつて繁昌する。遺産を贈るという手紙がくるが魂の入れ違いで一度は受け取れず、ようやく取り返す。

近郷道中膝栗毛 きんごうどうちゆうひざくりげ、四編八冊、為永春水二世（為永春笑）作、溪齋英泉画、自序、無刊記（弘化三年刊か）、影印膝栗毛文芸集成24、注全四編、弘化三の刊記は未確認。玉川大本初編は安政三に錦耕堂（山口屋藤兵衛）（江戸）板。参照香川大神原。弥次喜多後日譚。松山箭弓稲荷を指す旅。到着しないまま終わる。

（勸善懲惡）稽古三味線 けいこしゃみせん、三冊、一筆庵主人（溪齋英泉）作、歌川国貞画、翻刻滑稽名作集下・帝国文庫26、注所在がよくわからない。三馬の稽古三弦と同類。

茶番独案文 ちゃばんひとりあんもん、一冊、万亭応賀作、歌川豊国画、翻刻口上茶番集集成、注口上茶番の種本、参照蓬左。二十五番の口上茶番。簡単な口上茶番を収録。

売色安本丹後編 ばいしよくあんぼんたんこうへん、三冊、為永春水二世（為永春笑）作、歌川直久画、釜屋又兵衛（江戸）板、翻刻絵本稗史小説6、参照抱谷。一九作の続編。幽霊丹吉が現世に戻つて騒動をおこす。

百口集夢 ひやつこうしゅうゆめ、一冊、中田庵一町・源平堂愚言・高岡軒舛九作、注高岡所蔵のみ。

（入間一生独案内）善悪道中記三編 ぜんあくどうちゆうきさんへん、一冊、一筆庵主人（溪齋英泉）作、一勇齋（歌川国芳）画、本屋又助・梶屋喜兵衛（江戸）板、参照蓬左。善悪道中記物。

弘化四年（一八四七）

（教訓滑稽）魂胆夢輔譚四編 こんたんゆめすけばなししへん、三卷三冊、一筆庵主人（溪齋英泉）作画、弘化三自序、丁字屋平兵衛（江戸）・河内屋茂兵衛（大坂）他6軒板、翻刻滑稽文学全集6・帝国文庫滑稽名作集、参照蓬左。夢輔物。猿と魂を入れ替えるなどのドタバタ。

（教訓滑稽）魂胆夢輔譚五編 こんたんゆめすけばなししへん、三卷三冊、一筆庵主人（溪齋英泉）作画、丁字屋平兵衛（江戸）・河内屋茂兵衛（大坂）他6軒板、翻刻滑稽文学全集6・帝国文庫滑稽名作集、参照蓬左。夢輔物。遺産をもらうための上州行き。神に諭され真人間になる。

茶番入船帳初編 ちゃばんいりふねちよう、一冊、万亭応賀作、橘蝶楼貞房（歌川貞房）画、弘化三序、無刊記、翻刻興津要『明治開化期文学の研究』、影印口上茶番集集成、参照口上茶番集

集成。口上茶番集。手軽にできる題と景物を集めたとする。

弘化五年／嘉永元年（一八四八）

道中女膝栗毛初編 どうちゆうおんなひざくりげしよへん、三冊、紀永人作、溪斎英泉画、佐脇銀次（江戸）板、参照蓬左。

奥羽一覽道中膝栗毛初編 おうういちらんどうちゆうひざくりげしよへん、三巻三冊、十返舎一九三世（三亭春馬）作、三溪・両廼屋隣春画、紙屋利助・山崎屋清七（江戸）板、翻刻帝国文庫9、影印膝栗毛文芸集成25、注正月刊、参照中京大。弥次喜多が『金草鞋』の主人公である鼻毛延高と筑羅坊を誘って奥州を目指す。

奥羽一覽道中膝栗毛二編 おうういちらんどうちゆうひざくりげにへん、三巻三冊、十返舎一九三世（三亭春馬）作、梅溪画、紙屋利助・山崎屋清七（江戸）板、翻刻帝国文庫9、影印膝栗毛文芸集成25、注正月刊、参照中京大。膝栗毛物。

奥羽一覽道中膝栗毛三編 おうういちらんどうちゆうひざくりげさんへん、三巻三冊、十返舎一九三世（三亭春馬）作、梅溪画、河内屋茂兵衛（大坂）・丁子屋平兵衛・山口屋藤兵衛・山崎屋清七（江戸）板、翻刻帝国文庫9、影印膝栗毛文芸集成25、注六月刊、参照中京大。膝栗毛物。

人心覗からくり後編 ひとごころのぞきからくりこうへん、三巻三冊、梅亭金鷲作、溪斎英泉画、丁子屋平兵衛（江戸）板、参照国文研。三馬作の続編。

（人間一独案内）善悪道中記三編 ぜんあくどうちゆうきさんへん、一冊、一筆庵主人（溪斎英泉）作、一勇斎（歌川国芝）画、本屋又助・椀屋喜兵衛（江戸）板、参照蓬左。善悪道中記物。

嘉永二年（一八四九）

（人間一独案内）善悪道中記四編 ぜんあくどうちゆうきしへん、一冊、一筆庵主人（溪斎英泉）作、玉蘭斎貞秀（歌川貞秀）画、本屋又助・椀屋喜兵衛（江戸）板、参照蓬左。善悪道中記物。

滑稽道戯問答 こっけいどうけもんどう、二巻一冊、一筆庵主人（溪斎英泉）作画、自序（嘉永二）、永楽屋丈助（江戸）板、注表紙は「道戯問答」、内題が「滑稽道戯問答」、「白痴問答（たわけもんどう）」の後編、東京学芸大学本は宝来堂板。参照蓬左。草双紙形式。絵に「——はいかん」に「——のごとし」で問答を添えた。

奥羽一覽道中膝栗毛四編 おうういちらんどうちゆうひざくりげしへん、三巻三冊、十返舎一九三世（三亭春馬）作、歌川国芳

画、紙屋利助・山崎屋清七（江戸）板、翻刻帝国文庫9、影印
膝栗毛文芸集成25、参照中京大。膝栗毛物。

忠臣裏皮肉論 ちゆうしんうらひにくろん、二巻二冊、池田英
泉（漢齋英泉 作、歌川豊国（三代）画、嘉永一序、無刊記、影
印早大HP、参照早大。

（鹿相惣六）異国噺 いこくばなし、一冊、十方舎一丸作画。

花暦八笑人五編 はなごよみはつしょうじんごへん、一筆庵主
人（漢齋英泉（五編上巻）・与鳳亭枝成（五編中・下巻）作、一勇齋
国芳（歌川国芳）（上巻）、歌川芳綱（中・下巻）画、大島屋伝右衛
門（江戸）（早大本、下巻無刊記。上巻署名）板、影印早大HP、翻
刻岩波文庫・有朋堂文庫・講談社文庫、参照早大。涼み舟に狸
囃子の趣向。行く途中で飲み過ぎて失敗する。枝成によって七
偏人風の下品な終わり方に。

嘉永三年（一八五〇）

奥羽一覽道中膝栗毛五編 おうういちらんどうちゆうひざくり
げごへん、三巻三冊、十返舎一九三世（三亭春馬）作、逸見一信
画、紙屋利助・山崎屋清七（江戸）板、注中京本は嘉永元年の
刊行となっている。翻刻帝国文庫9、影印膝栗毛文芸集成26、
参照中京大。

梅亭茶番 ばいていちやばん、一冊、梅亭金鵝作、橘蝶楼貞房
（歌川貞房）画、松亭漁史序（嘉永二）、無刊記。刊年は推定、影
印口上茶番集成。参照東北大狩野。十二月分の茶番。

無飽三財図会二編 あかささんさいずえにへん、二巻二冊、幻
花情史作、翻蝶庵（大坂）板、影印早大HP、参照早大。和漢
三才図会パロディ本。

（人間一生独案内）善悪道中記五編 ぜんあくどうちゆうぎごへ
ん、一冊、楽亭西馬作、歌川国輝画、本屋又助・椀屋喜兵衛（江
戸）板、参照蓬左。

茶番入船帳二編 ちゃばんいりふねちよう、一冊、万亭応賀作、
歌川国麿画か、嘉永二序、無刊記、吉田屋源八（江戸）板、翻
刻興津要『明治開化期文学の研究』、影印口上茶番集成、参
照口上茶番集成。口上茶番本。

嘉永四年（一八五二）

（草履は長刀草鞋は蛸）人真似目覚旅路　ひとまねめざましたびじ、四編十二卷十二冊、永楽舎一水作、影印膝栗毛文芸集成27、注古典籍DBが海寿堂海老屋林之助（江戸）を版元とし画工を一隣斎芳廉（歌川芳廉）とするが詳細不明、嘉永七年版が大橋にあったという。刊年はすべて嘉永四。参照蓬左。江戸っ子二人の筑波旅。初編千住より崎房、二編下より筑波。三編下より筑波山。

（滑稽道中）宮島土産　みやじまみやげ、六冊、十方舎一丸作画、須原屋茂兵衛（江戸）板、注蓬左は初編の拾遺のみ。版元は津市橋本本より。参照蓬左。

（人間一生独案内）善悪道中記六編　ぜんあくどうちゆうきろくへん、一冊、楽亭西馬作、歌川国輝画、本屋又助・枕屋喜兵衛（江戸）板、影印早大HP、参照蓬左。善悪道中記物。

嘉永五年（一八五二）

茶番頓智論　ちやばんとんちろん、二卷二冊、愛染連作、青梧画、蔵遊舎（不明）、影印早大HP・口上茶番集成、参照蓬左。翠柳亭梅鶯・東雅園蝶嬉を催主とする愛染連の口上茶番集。全百三番。

嘉永六年（一八五三）

すみよし膝栗毛　すみよしひざくりげ、一冊、曙千角作、影印膝栗毛文芸集成24、注無刊記で刊年は見返しより、参照蓬左。大坂人二人の住吉参詣。

嘉永七年／安政元年（一八五四）

善悪胸の機関　ぜんあくむねのからくり、一冊、式亭三馬作、歌川豊国画、嘉永六序、注『早替胸のからくり』の改題本。

（昇天奇話）和莊兵衛続編　わそうびようえぞくへん、四卷四冊、高薫園胡蝶散人作、丁子屋平兵衛・大島屋伝右衛門・紙屋徳八・菊屋幸三郎・山崎屋清七（江戸）・吉野屋仁兵衛（京）・河内屋源七郎（大坂）板、参照国文研本。異国遍歴物『和莊兵衛』（安永五刊）の類作だが堅苦しく滑稽味が薄い。

安政二年（一八五五）

（弥二喜太八）道中膝栗毛　どうちゆうひざくりげ、柳下亭種清作、歌川豊国画、注筑波大所蔵。

安政三年（一八五六）

成田道中膝栗毛　なりたどうちゆうひざくりげ、一冊、鈍亭魯文（仮名垣魯文）作、一松斎芳宗（歌川芳宗）画、無刊記。草双紙形式。

安政四年（一八五七）

（妙竹林話）七偏人初編 しちへんじんしょへん、三卷三冊、梅亭金鷲作、大和屋喜兵衛（江戸）板、影印早大HP（明治十六版）、翻刻滑稽名作集下・滑稽本集・有朋堂文庫、近代日本文学大系・滑稽文学全集5・講談社文庫、注明治十八版あり。早大本は大川錠吉板。柳橋新道喜次郎とその仲間六人がくりひろげるいたずら小説。年始の場面から。食べ物のいたずらや銭湯での騒動。

（妙竹林話）七偏人二編 しちへんじんへん、三卷三冊、梅亭金鷲作、大和屋喜兵衛（江戸）板、影印早大HP（明治十六版）、翻刻滑稽名作集下・滑稽本集・有朋堂文庫、近代日本文学大系・滑稽文学全集5・講談社文庫、注明治十八版あり。早大本は大川錠吉板。夏の場、茶番の趣向を考えるが失敗に終わる。

（妙竹林話）七偏人三編 しちへんじんさんへん、三卷三冊、梅亭金鷲作、大和屋喜兵衛（江戸）板、影印早大HP（明治十六版）、翻刻滑稽名作集下・滑稽本集・有朋堂文庫、近代日本文学大系・滑稽文学全集5・講談社文庫、注明治十八版あり。早大本は大川錠吉板。茶屋娘を惚れさせようとして失敗に終わる。

忠臣蔵皮肉論 ちゆうしんぐらひにくろん、三卷三冊、十返舎一九三世（三亭春馬）作、丸屋文右衛門（不明）・越前屋長次郎（江戸）・川村儀右衛門（不明）板、影印早大HP、注忠臣蔵岡目評判の改題本。参照早大。

安政五年（一八五八）

江の島栗毛 えのしまくりげ、四卷一冊、鈍亭魯文（仮名垣魯文）作、一揚斎直政（歌川直政）画、安政四自序、参照蓬左・国文研。『金草鞋』のような草双紙。弥次喜多、江ノ島へ詣でる。

安政六年（一八五九）

荏土膝栗毛 えどひざくりげ、二卷一冊、東海道大河（東海堂大河）・鈍亭魯文（仮名垣魯文）作、一松斎芳宗（歌川芳宗）画、安政五序、糸屋福次郎（江戸）板、注のちに「東京膝栗毛」と改題後刷。参照国文研本。草双紙。両国界隈の様子を描く。

笑談貧福軍記初編 しょうだんひんぷくぐんきしょへん、三卷三冊、一荷堂半水作、歌川国貞二世画、河内屋平七（大坂）板、影印早大HP、注刊年は序文より、参照早大。貧福太平記（文政九刊）の焼き直しの作品。貧乏神福の神による富者貧者の入れ替わりを軍記調に記す。

安政6年～文久2年

笑談貧福軍記二編 しょうだんひんぶくぐんきにへん、三卷三冊、一荷堂半水作、歌川国貞二世画、河内屋平七〈大坂〉板、影印早大H P、注刊年は序文より、参照早大。貧福太平記（文政九刊）の焼き直しの作品。貧乏神福の神による富者貧者の入れ替わりを軍記調に記す。

安政七年／万延元年（一八六〇）

笑談貧福軍記三編 しょうだんひんぶくぐんきさんへん、三卷三冊、一荷堂半水作、歌川国貞二世画、河内屋平七〈大坂〉板、影印早大H P、注刊年は序文より。四編を予告するが未見、参照早大。貧福太平記（文政九刊）の焼き直しの作品。貧乏神福の神による富者貧者の入れ替わりを軍記調に記す。

（同行署名所収）滑稽富士詣 こっけいふじもうで、十編二十冊、仮名垣魯文作、歌川芳虎・芳幾（八・九編）画万延一—文久一刊、恵比寿屋庄七〈江戸〉板、翻刻古典文庫162・164、影印藤栗毛文芸集成28・29、参照蓬左。富士參詣を描く。新宿より出発して富士、三島、箱根、鎌倉、小田原、江ノ島、横浜、江戸と巡る。質屋雀初編 しちやすずめしよへん、二卷二冊、律窓貞雅作、富士川船麻呂画、大島屋武田伝右衛門〈東京〉板、注刊年推定は序文、参照国文研本。質屋に集まる人々の会話を描いた浮世風呂・浮世床風作品。

文久元年（一八六一）

田舎芝居薬屋雑談 いなかしばいがくやぞうだん、二編二冊、桂花園綾守作、万延一序、無刊記。一丁表から文久一刊と推定、影印早大H P、参照蓬左・早大。初編は典型的な田舎芝居物。二編は村を離れて旅宿を描く。

（滑稽）江戸久居計初編 えどくいきけしよへん、二卷一冊、岳亭春信（岳亭定阿）作、歌川芳幾画、国会本は旧大惣本、参照国会。草双紙形式。弥次喜多が江戸の飲食店を巡る。

（滑稽奇話）酒取物語 さけとりものがたり、三卷三冊、平亭銀鷄（畑銀鷄）作、一梅齋芳春（歌川芳春）画、無刊記、影印早大H P、参照早大。酒をめぐる話。竹取物語のパロディ。

文久二年（一八六一）

（妙竹林話）七偏人四編 しちへんじんしよへん、三卷三冊、梅亭金鷲作、大和屋喜兵衛〈江戸〉板、影印早大H P（明治十六版）、翻刻滑稽名作集下・滑稽本集・有朋堂文庫・近代日本文学大系・滑稽文学全集5・講談社文庫、注明治十八版あり。早大本は大川錠吉板。夜道で人を脅かそうとして失敗する。

五十三次藤栗毛 ごじゅうさんつきひざくりげ、二編二冊、文亭春嶽作、注立命館所蔵。

(人間一生独案内) 善悪道中記七編 ぜんあくどうちゆうきしちへん、一冊、景斎英寿作画、本屋又助・腕屋喜兵衛〈江戸〉板、参照蓬左。善悪道中記物。

文久三年(一八六三)

(妙竹林話) 七偏人五編 しちへんじんごへん、三卷三冊、梅亭金鷲作、大和屋喜兵衛〈江戸〉板、影印早大HP (明治十六版)、翻刻滑稽名作集下・滑稽本集・有朋堂文庫・近代日本文学大系・滑稽文学全集5・講談社文庫、注明治十八版あり。早大本は大川錠吉板。秋の場、百物語からの騒動。冬の場、一同会しての座談。

(戯訓) 貧福太平記二編 ひんぷくたいへいきにへん、四冊、近松春の屋作、翻刻通俗経済文庫一〇、貧者と富者の盛衰を太平記のような軍記物風に描いた作品。

元治二年／慶応元年(一八六五)

口上茶番指南車初編 こうじょうちやばんしなんぐるましよへん、一冊、春霞楼秀賀(鶴亭秀賀)作、歌川国孝画、自序、辻岡屋文助〈江戸〉板、翻刻口上茶番集集成、注明治頃「口上茶番独稽古」で再版、参照都立中央。江戸名所や花尽くしなどで十七番。景物や演者の姿が描かれず、文章のみ。実演の注意も記す。

(業屋興言) 鳴久者評判記 あくしやひようばんぎ、一冊、悪文舎他笑・善哉亭夢窓作、足立徳三郎・染谷藤七・白縫功助〈江戸〉板、翻刻徳川文芸類従12、参照蓬左。横本の評判記パロディ本。悪摺といわれた落書の評判。

慶応二年(一八六六)

滑稽大和廻 こっけいやまとめぐり、南無三仕舞多作、元治二序、慶応二刊か、注立命館所蔵。
(箱館土産藤栗毛) 中の巻小夜嵐 ちゆうのまきさよあらし、一冊、六本杉桃鷲作、慶応二刊、注函館所蔵。

慶応三年(一八六七)

(増補) 東海道藤栗毛 とうかいどうひざくりげ、七編二一巻七冊、狗々山人(笠亭仙果一世)作、慶応三・明治三刊、藤岡屋慶治郎〈江戸〉板、注内題道中滑稽譚。参照蓬左。『道中藤栗毛』のほぼ忠実なりライト。

刊年未確定本

(浮世談合) 藤栗毛 (うきよだんごう) ひざくりげ、二卷二冊、十方舎一丸作画、自序、滑稽堂〈大坂〉板、影印藤栗毛文芸集成24、注正確な刊年は不明。参照蓬左。作者は一九門人。弥次喜多を主人公とし名古屋から京を経て大坂へ旅する。

(御室八十八カ所) 四国栗毛 しこくくりげ、山東京鶴作、菱川師保画、版元不明、翻刻石川了『大妻女子大学紀要文系』42、影印藤栗毛文芸集成21。注木板が大妻女子大学に。後編は関西大学所蔵。参照蓬左。江戸っ子のふりをする京の町人二人が御室山八十八カ所を巡る。

滑稽千社参 せんじやまいり、四編八巻八冊、梅亭金鷲作、鶯齋画(初く三編)、影印藤栗毛文芸集成26、注版元不明。刊年も不明、参照蓬左。初二編は五人の男たちが願い事を告白する内容。三四編で千社参りへ王子稲荷に向かう。

(勸善美談) 益身鏡 ますみかがみ、二巻二冊、為永春水作、溪斎英泉画、自序(卯の年)、大島屋伝右衛門(江戸)板、注『三十六佳撰』(弘化二刊)の広告があることから、序文は天保癸卯(14)成か。参照蓬左。

(諸家必読) 出放題初編 でほうだい、三巻三冊、善譚主人作、参照蓬左。

所在不明図書

御歳玉の春 おとしだまのはる、一冊、十返舎一九作、五湖亭貞景(歌川貞景)画、文化十四刊、続帝國文庫一九全集、注旧大橋。

狂戯別伝風流問答 きょうげべつでんふうりゅうもんどう、一冊、文鶯亭春馬作、文政五刊。

高田山開帳参案内図会 たかださんかいちようまいりあんないぜえ、猿猴庵(高方種信)作、文政九刊、名古屋叢書風俗芸能編二、注能知亭折助噺の後編。

玉櫛笥 たまくしげ、一冊、楚満人二世(為永春水)作、春齋英笑画、文政九刊、翻刻滑稽文学全集三、注小林書店目録に出現。

質屋雑談 しちやぞうだん、三冊、滝亭鯉丈作、歌川国芳画、翻刻江戸時代文化一の一・三・五。

(世の中豊年) 富貴の正夢 ふうきのまさゆめ、二冊、南里亭其樂(楠里亭其樂)作、葛飾北洋画、天保五刊。

滑稽年中行事 こっけいねんじゅうぎょうじ、林屋正蔵作、歌川貞秀画、天保七刊。

〔よしまる かつや 本学教員〕